
赤穂市
在宅介護実態調査
報告書

令和2年3月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 調査票の回収状況	1
(4) 留意点	1
2. 回答者の属性	2
(1) 性・年齢、要介護度	2
(2) 回答の記入者	3
(3) 世帯類型	3
(4) 現在抱えている傷病	4
3. 親族による介護	5
(1) 介護の頻度	5
(2) 主な介護者の属性	6
(3) 介護の内容	8
(4) 介護離職	10
4. 支援・サービス	15
(1) 介護保険サービス（利用状況、満足度、利用していない理由）	15
(2) 介護保険サービス以外の支援・サービス	17
(3) 在宅生活に必要な支援・サービス	18
(4) 施設等への入所・入居の検討状況	19
(5) 訪問診療の利用状況	19
(6) 希望する生活	20
5. クロス集計	22
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	22
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	30
(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	35
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	40
(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	43
(6) その他	47

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、「第8期赤穂市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」を策定するにあたり、在宅で生活をしている要支援・要介護認定者の介護に関する実態を把握し、「要介護者の在宅生活の継続」や「介護者の就労の継続」に有効な介護サービスの在り方を検討するための基礎的な資料を作成するために実施しました。

(2) 調査の実施について

以下の調査を実施しました。

調査名	赤穂市在宅介護実態調査
	郵送調査
対象者	令和元年12月16日時点において在宅で生活している要支援・要介護者のうち、「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」をした高齢者1,000人
実施期間	令和2年1月16日（木）～令和2年1月31日（金）
実施方法	郵送配布、郵送回収

(3) 調査票の回収状況

	郵送調査
件数(配布数)	1,000件
有効回答数	702件
有効回答率	70.2%

(4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer)、3LA (3 Limited Answer) と記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. クロス集計については、厚労省が推奨する在宅介護実態調査の自動集計分析ソフト（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社作成）を用いて、回答結果と認定データを突合・集計している。認定データと突合ができない回答及び無回答を除いた集計となっている。

2. 回答者の属性

(1) 性・年齢、要介護度

全体		702 件
性・年齢	男性 前期高齢者	42 件
	後期高齢者	162 件
	女性 前期高齢者	45 件
	後期高齢者	453 件
要介護度	要支援 1	153 件
	要支援 2	148 件
	要介護 1	164 件
	要介護 2	94 件
	要介護 3	67 件
	要介護 4	37 件
	要介護 5	37 件
認定データなし		2 件

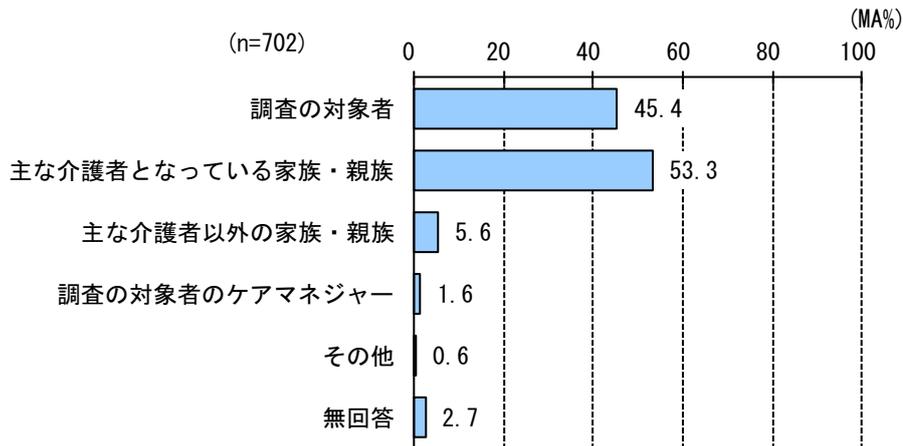
(2) 回答の記入者

●問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(いくつでも○)

【全体】

○ 回答者について、「主な介護者となっている家族・親族」が53.3%で最も多く、次いで「調査対象者」が45.4%、「主な介護者以外の家族・親族」が5.6%となっています。

【回答者(MA)】



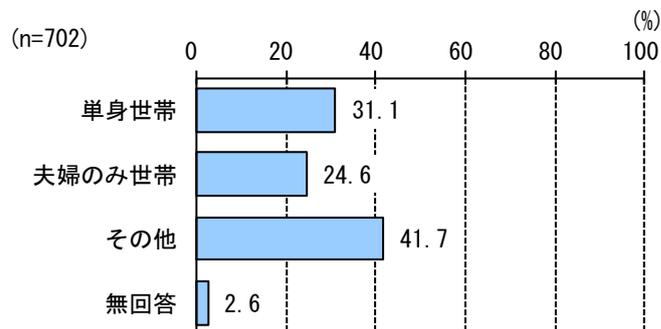
(3) 世帯類型

●問2 調査対象者の世帯類型について、ご回答ください。(1つだけ○)

【全体】

○ 世帯類型について、「その他」が41.7%で最も多く、次いで「単身世帯」が31.1%、「夫婦のみ世帯」が24.6%となっています。

【世帯類型】



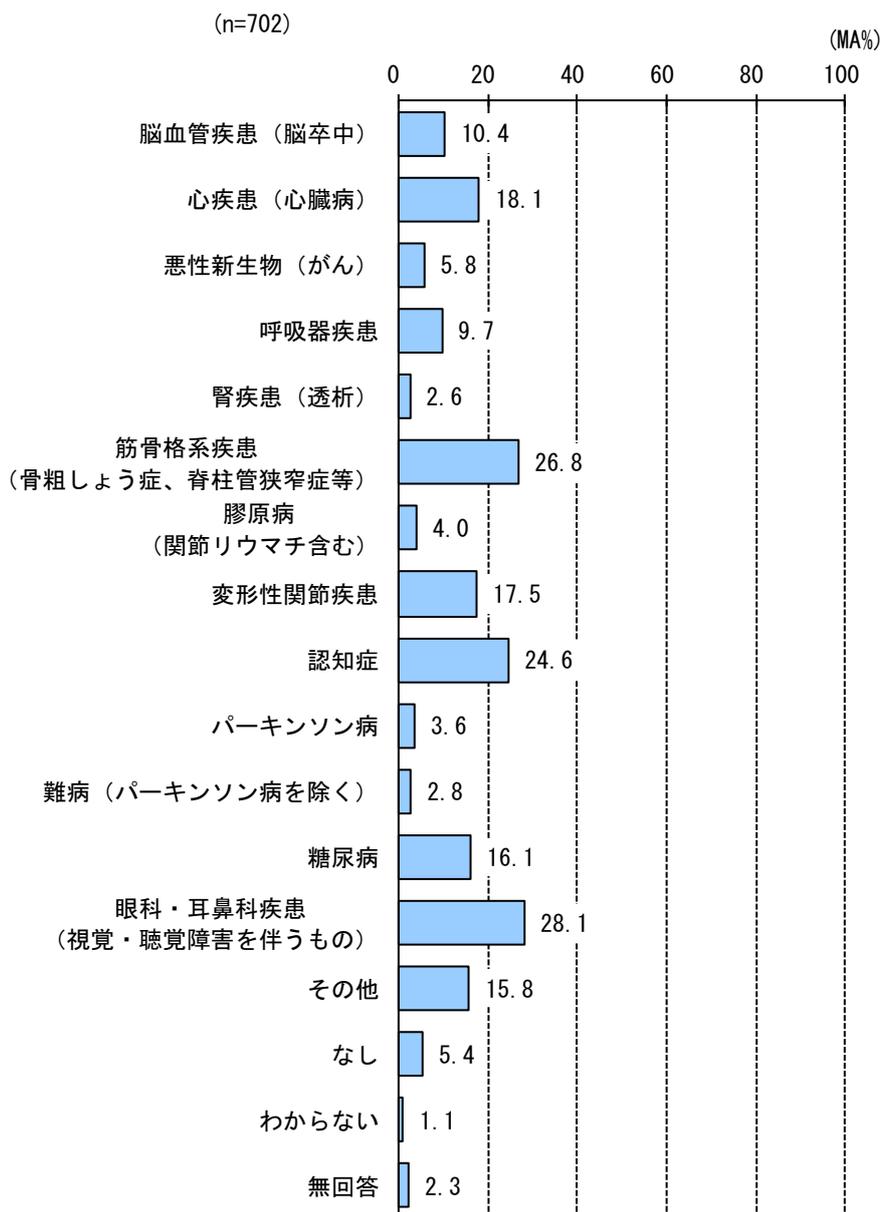
(4) 現在抱えている傷病

●問 12 調査対象者が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(いくつでも○)

【全体】

○ 現在抱えている傷病について、「眼科・耳鼻科疾患（視覚聴覚障害を伴うもの）」が28.1%で最も多く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が26.8%、「認知症」が24.6%となっています。

【現在抱えている傷病(MA)】



3. 親族による介護

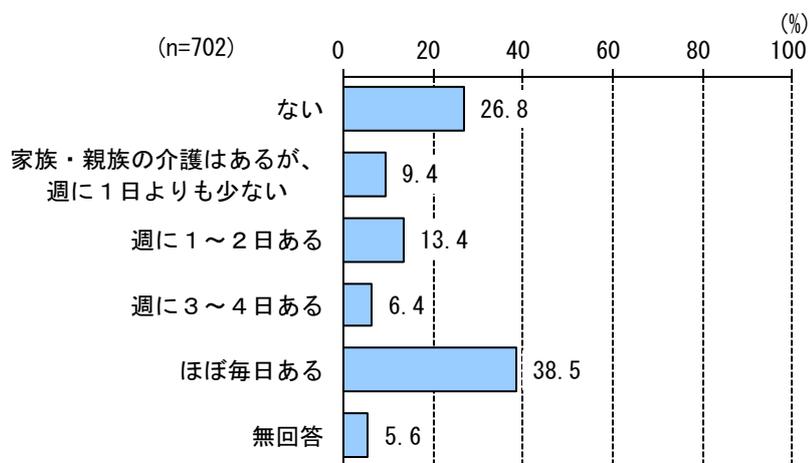
(1) 介護の頻度

- 問3 調査対象者は、ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(1つだけ○)

【全体】

○ 介護の頻度について、「ほぼ毎日ある」が38.5%で最も多く、次いで「ない」が26.8%、「週に1～2日ある」が13.4%となっています。

【介護の頻度】



(2) 主な介護者の属性

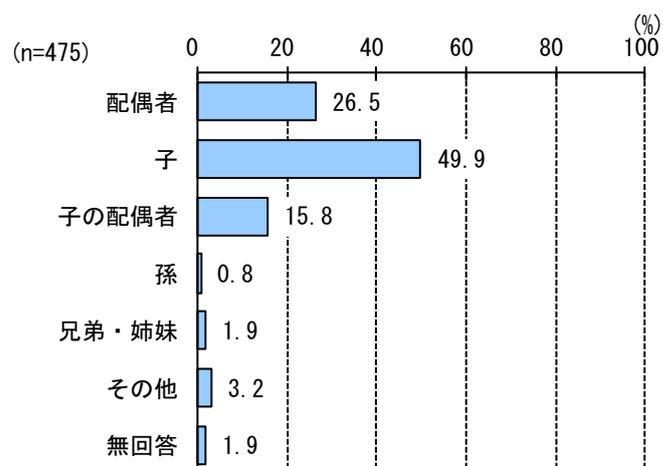
① 主な介護者

●問4 調査対象者を、主に介護している方は、どなたですか。(1つだけ○)

【全体】

○ 主な介護者について、「子」が49.9%で最も多く、次いで「配偶者」が26.5%、「子の配偶者」が15.8%となっています。

【主な介護者】



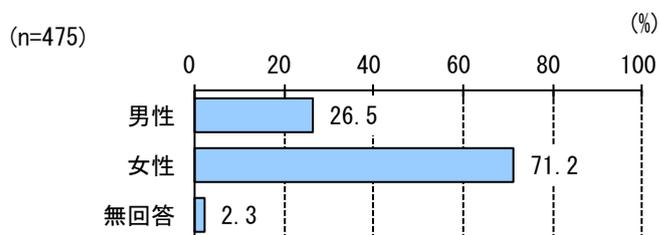
② 介護者の性別

●問5 調査対象者を、主に介護している方の性別について、ご回答ください。(1つだけ○)

【全体】

○ 主な介護者の性別について、「男性」が26.5%、「女性」が71.2%となっています。

【主な介護者の性別】



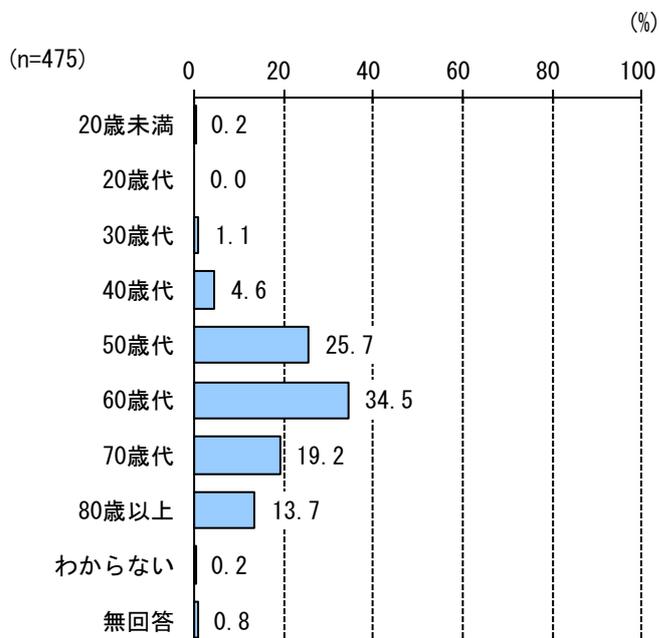
③ 介護者の年齢

●問6 調査対象者を、主に介護している方の年齢について、ご回答ください。(1つだけ○)

【全体】

○ 主な介護者の年齢について、「60歳代」が34.5%で最も多く、次いで「50歳代」が25.7%、「70歳代」が19.2%となっています。

【主な介護者の年齢】



(3) 介護の内容

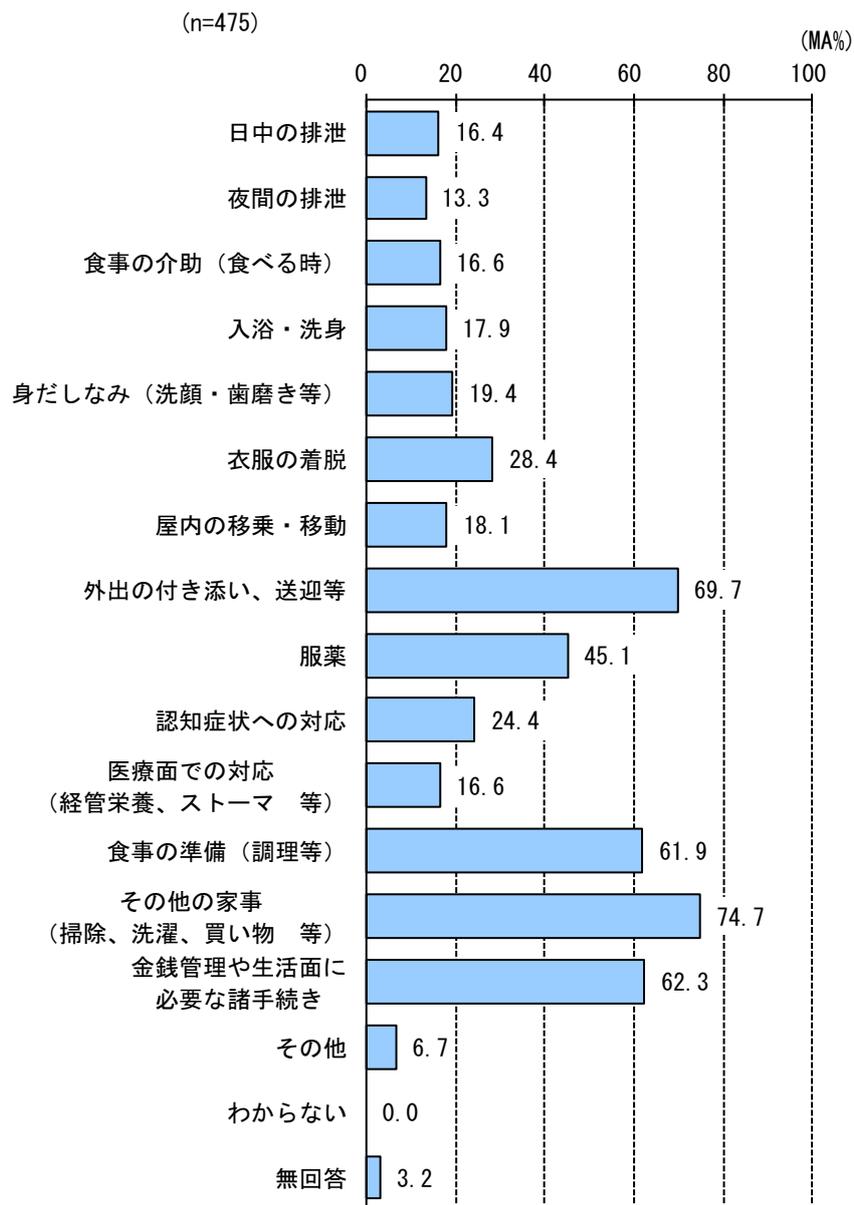
① 現在行っている介護

●問7 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(いくつでも○)

【全体】

○ 主な介護者が行う介護について、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が74.7%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が69.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が62.3%となっています。

【主な介護者が行う介護(MA)】



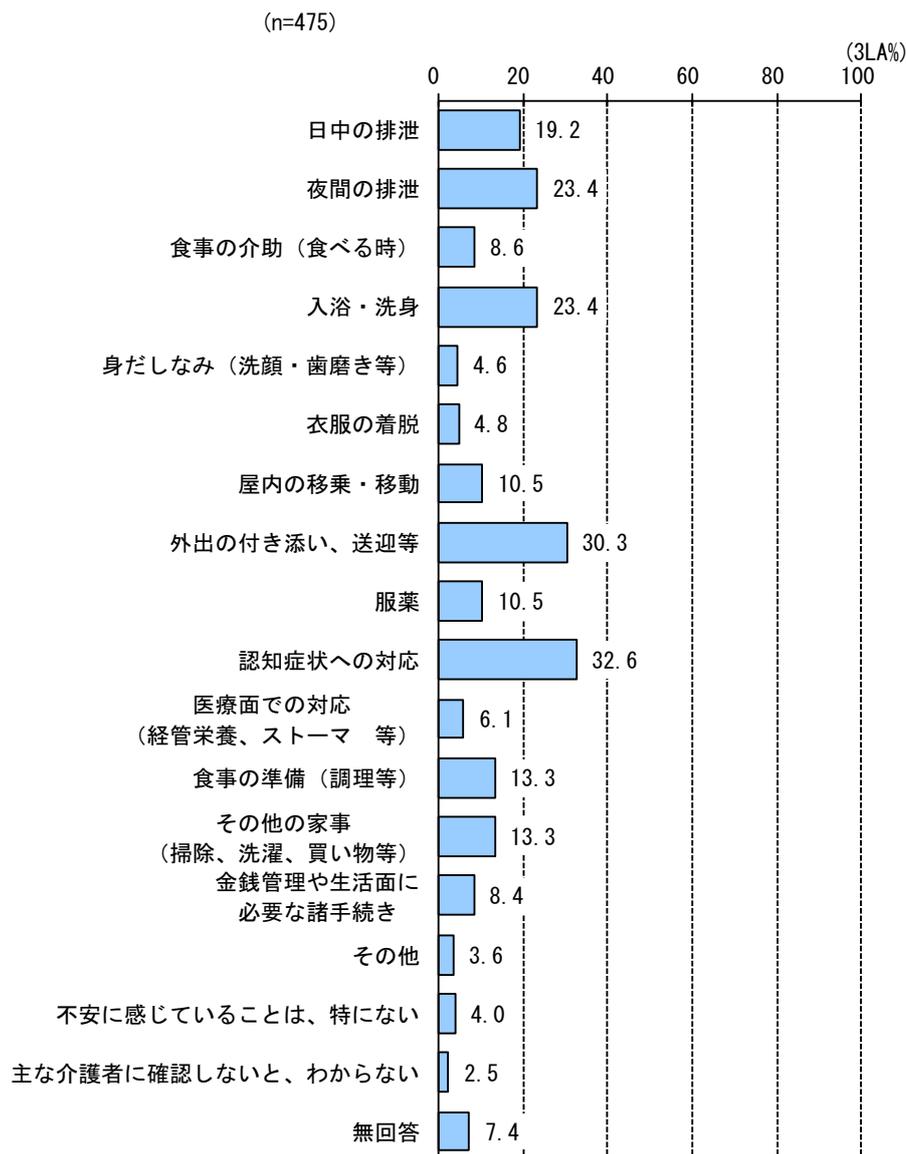
② 不安を感じる介護

- 問 21 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください。(3つまで○)

【全体】

○ 不安を感じる介護について、「認知症状への対応」が32.6%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が30.3%、「夜間の排泄」「入浴・洗身」が23.4%となっています。

【不安を感じる介護(3LA)】



(4) 介護離職

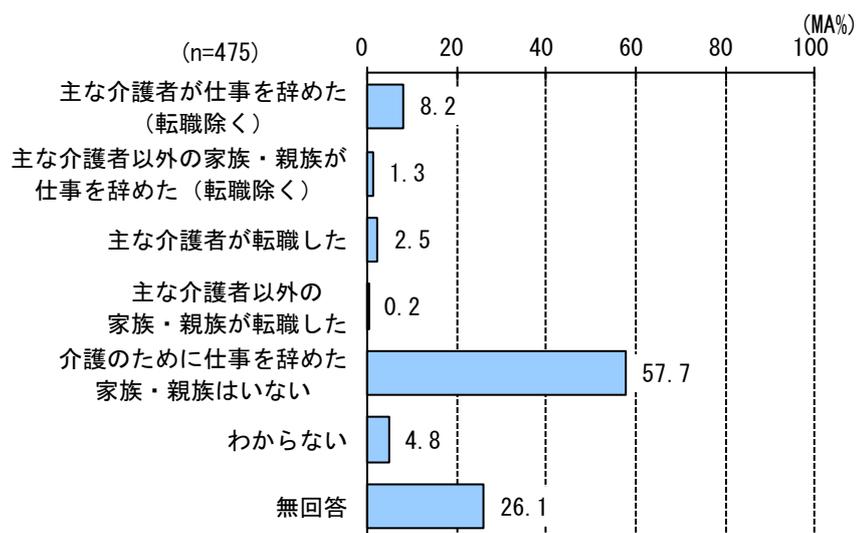
① 介護離職者の有無

●問 8 ご家族やご親族の中で、調査対象者の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(いくつでも○)

【全体】

○ 介護離職について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が57.7%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が8.2%、「わからない」が4.8%となっています。

【介護離職(MA)】



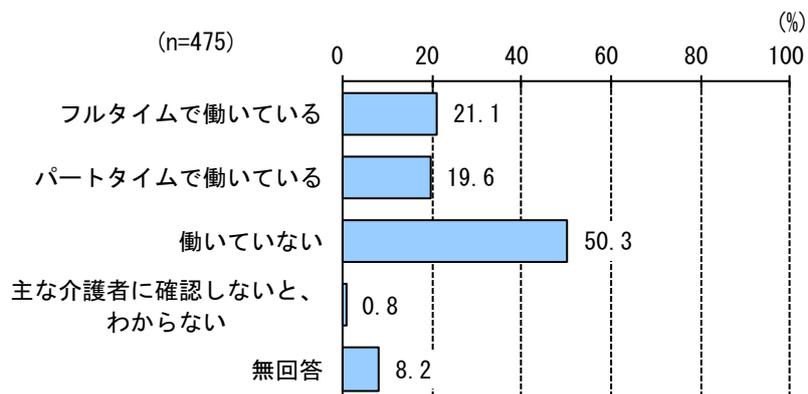
② 主な介護者の勤務形態

●問 17 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つだけ○)

【全体】

○ 主な介護者の勤務形態について、「働いていない」が50.3%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が21.1%、「パートタイムで働いている」が19.6%となっています。

【主な介護者の勤務形態】



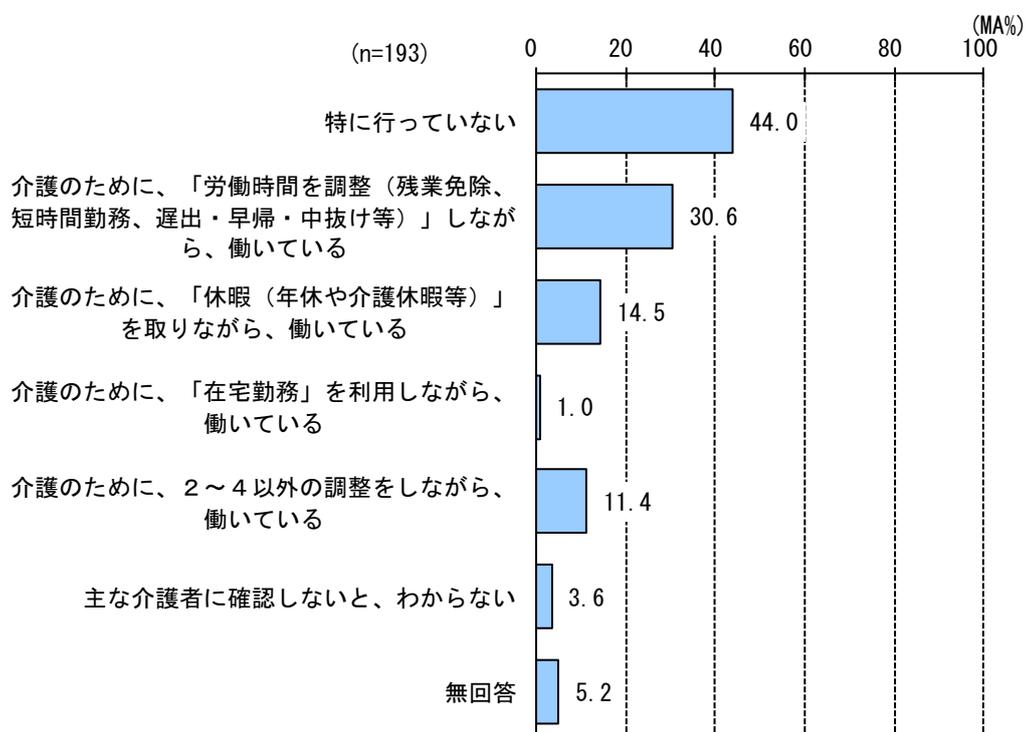
③ 働き方の調整

- 問 18 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしてい
ますか。(いくつでも○)

【全体】

- 働き方の調整について、「特に行っていない」が44.0%で最も多く、次いで「介護のために、
「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いてい
る」が30.6%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」
が14.5%となっています。

【働き方の調整(MA)】



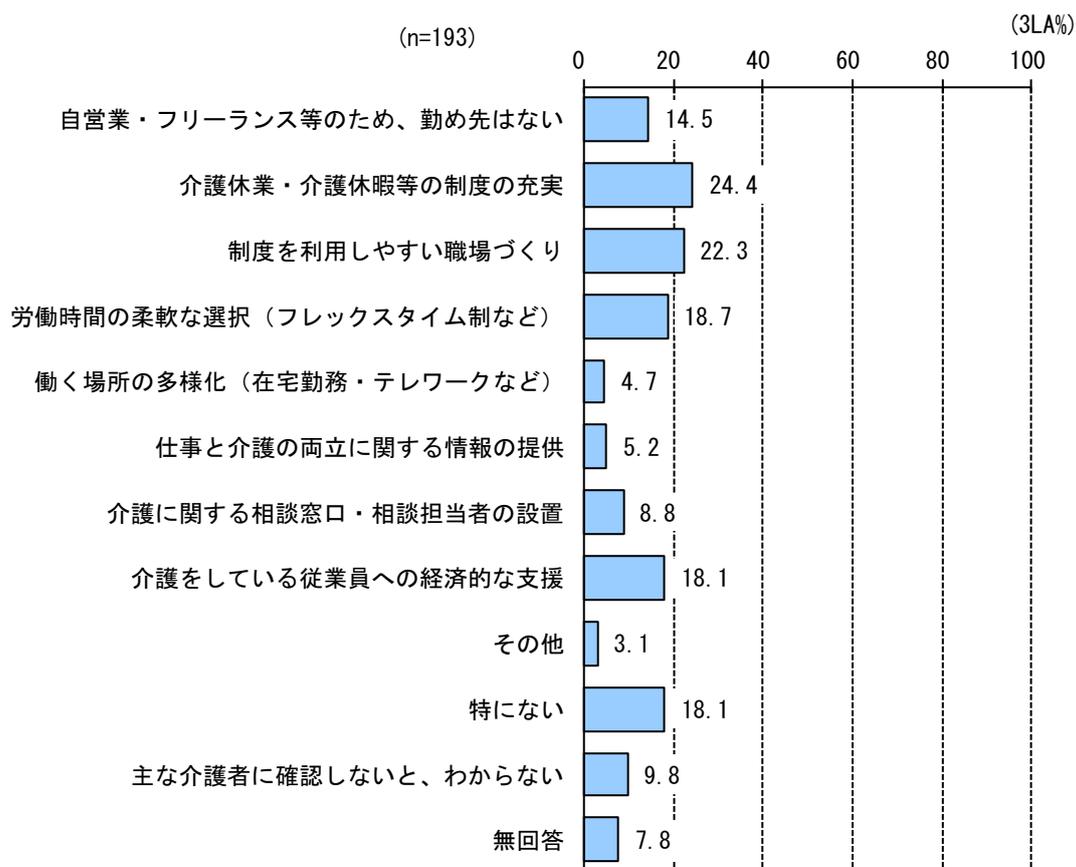
④ 勤め先からの必要な支援

- 問 19 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3つまで○）

【全体】

- 仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援について、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が24.4%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が22.3%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が18.7%となっています。

【仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援(3LA)】



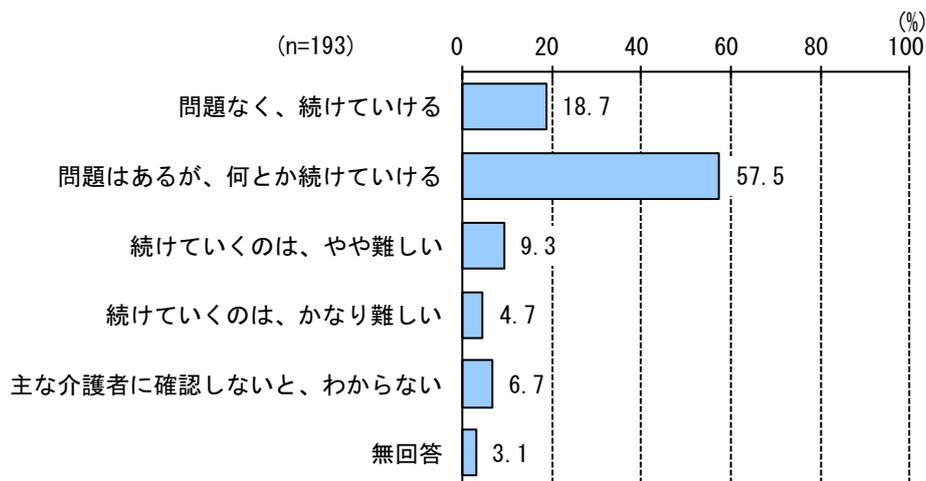
⑤ 今後の介護と仕事の両立

●問 20 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つだけ○)

【全体】

○ 今後の仕事と介護の両立について、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」を合わせた“続けていける”が76.2%、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“続けていくのは難しい”が14.0%となっています。

【今後の仕事と介護の両立】



4. 支援・サービス

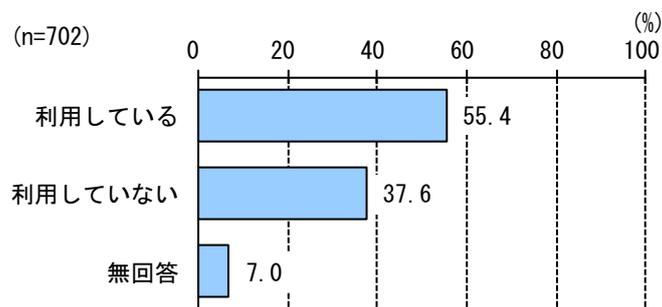
(1) 介護保険サービス（利用状況、満足度、利用していない理由）

- 問 14 調査対象者は、現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。（1つだけ○）

【全体】

- （住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスの利用状況について、「利用している」が55.4%、「利用していない」が37.6%となっています。

【（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスの利用状況】

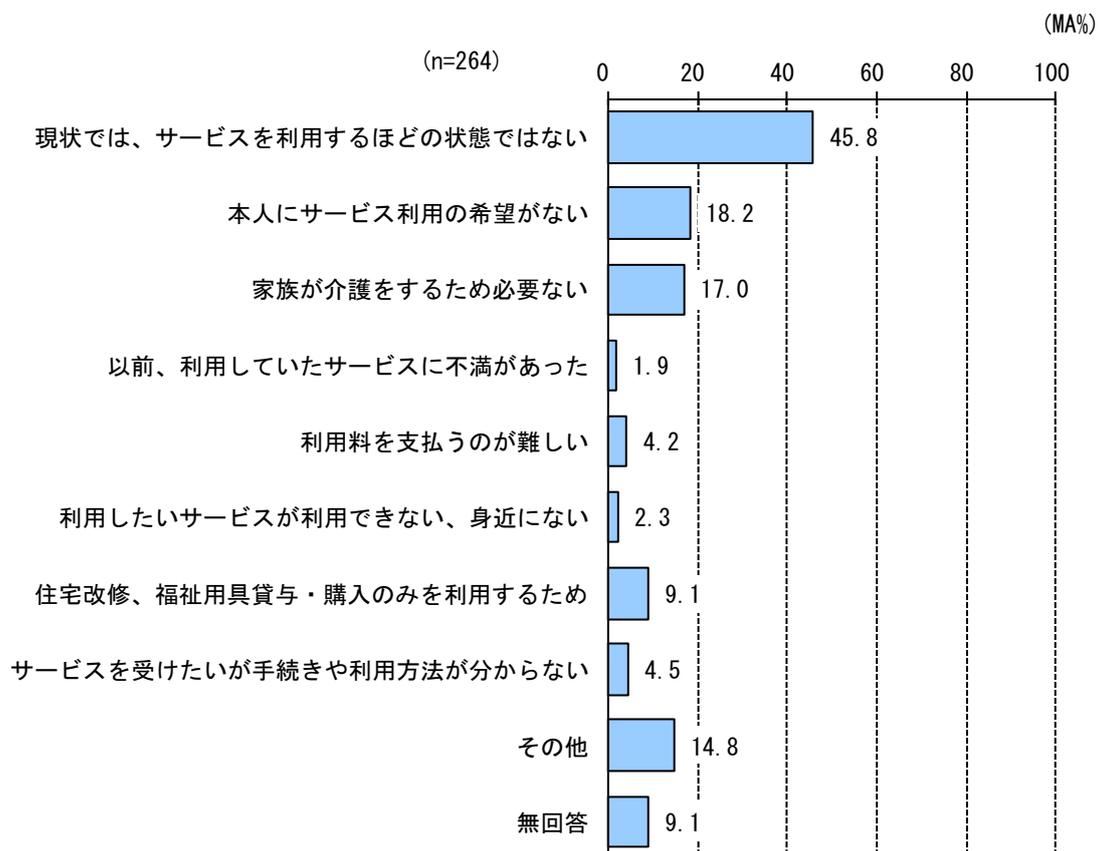


●問 15 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(いくつでも○)

【全体】

- 介護保険サービスを利用していない理由について、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が45.8%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が18.2%、「家族が介護をするため必要ない」が17.0%となっています。

【介護保険サービスを利用していない理由(MA)】



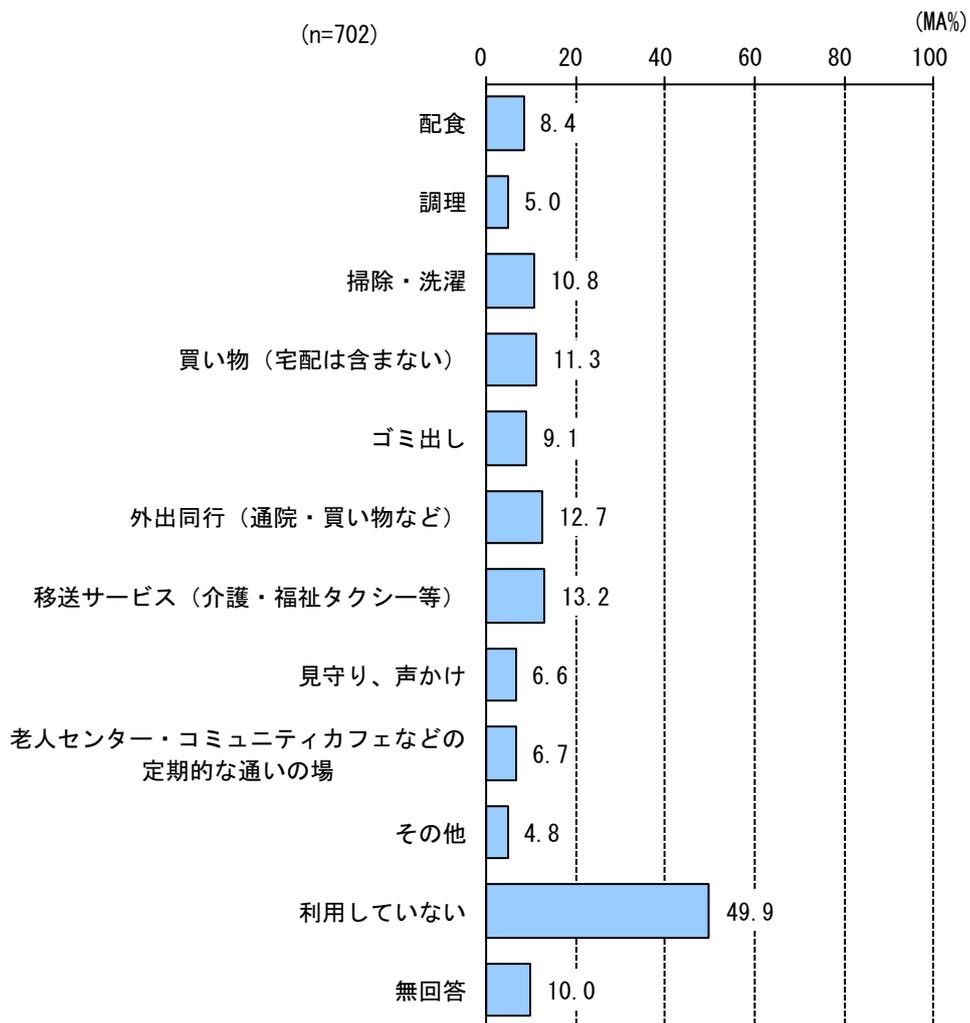
(2) 介護保険サービス以外の支援・サービス

- 問9 現在、調査対象者が利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(いくつでも○)

【全体】

- 利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについて、「利用していない」が49.9%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー）」が13.2%、「外出同行（通院・買い物など）」が12.7%となっています。

【利用している介護保険サービス以外の支援・サービス(MA)】



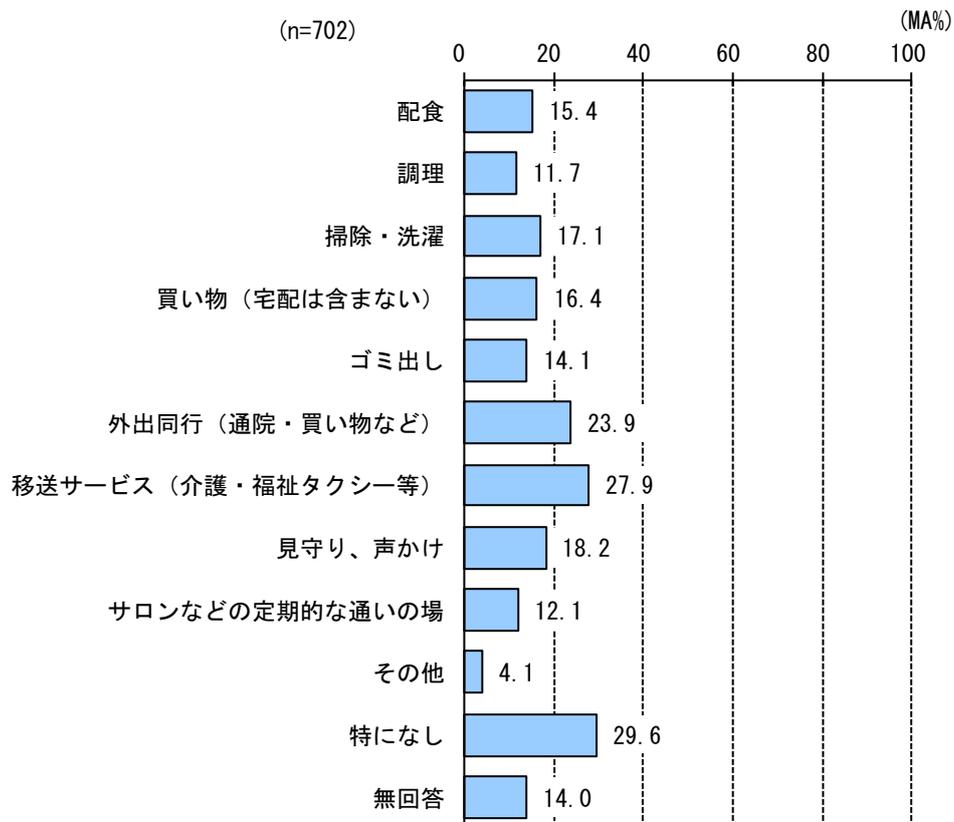
(3) 在宅生活に必要な支援・サービス

- 問 10 今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービスについて、ご回答ください。(いくつかでも○)

【全体】

- 在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 27.9%で最も多く、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が 23.9%、「見守り・声かけ」が 18.2%となっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス (MA)】



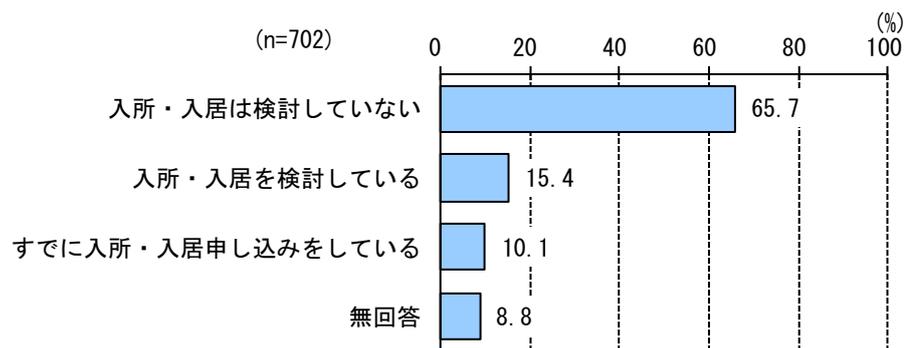
(4) 施設等への入所・入居の検討状況

- 問 11 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。(1つだけ○)

【全体】

- 施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居は検討していない」が 65.7%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が 15.4%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 10.1%となっています。

【施設等への入所・入居の検討状況】



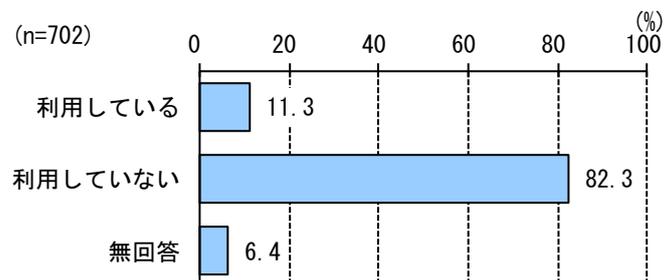
(5) 訪問診療の利用状況

- 問 13 調査対象者は、現在、訪問診療を利用していますか。(1つだけ○)

【全体】

- 訪問診療の利用有無について、「利用している」が 11.3%、「利用していない」が 82.3%となっています。

【訪問診療の利用有無】



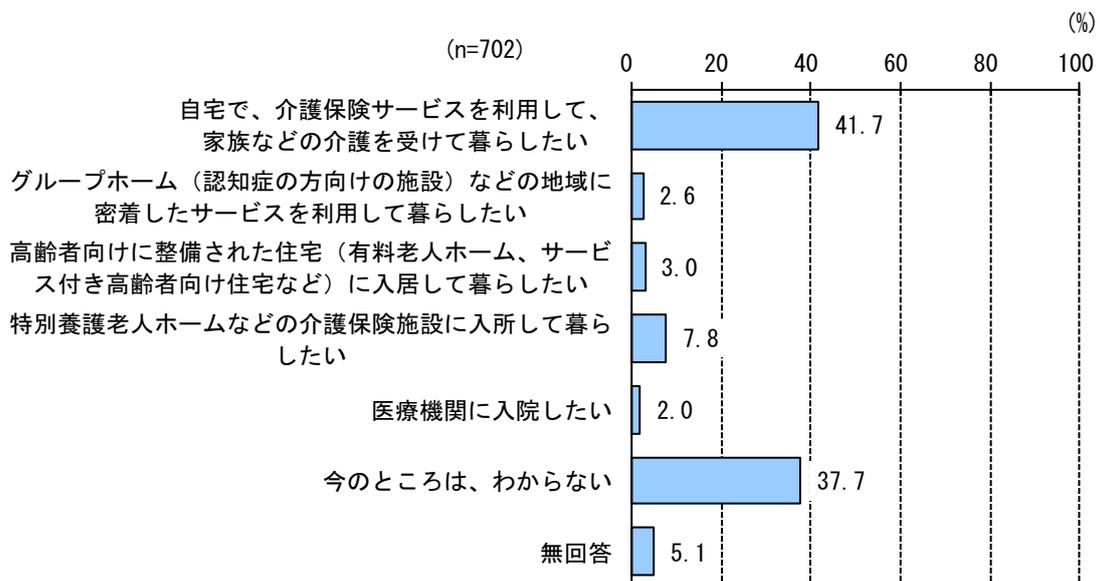
(6) 希望する生活

●問 16 あなたは今後の生活について、どのような生活を希望しますか。

【全体】

○ 今後、希望する生活について、「自宅で、介護保険サービスを利用して家族などの介護を受けて暮らしたい」が41.7%、「グループホーム（認知症の方向けの施設）などの地域に密着したサービスを利用したい」「高齢者向けに整備された住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など）を利用したい」「特別養護老人ホームなどの介護保険施設サービスを利用したい」「医療機関（入院）を利用したい」を合わせた“施設等に入所して暮らしたい”は15.4%、「今のところはわからない」が37.7%となっています。

【今後希望する生活】

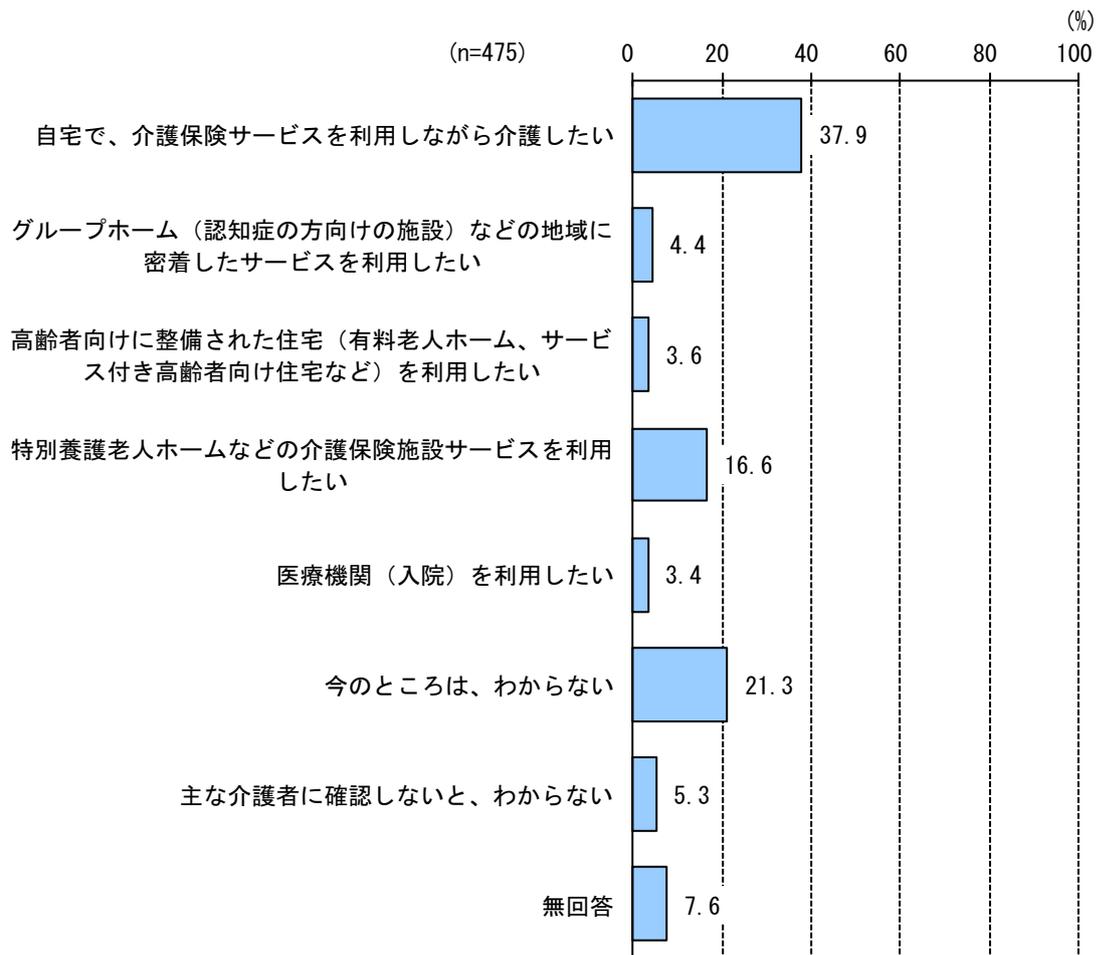


●問 22 主な介護者の方は、今後の介護をどのようにしていきたいとお考えですか。

【全体】

○ 今後の介護をどのようにしていきたいかについて、「自宅で、介護保険サービスを利用しながら介護したい」が 37.9%、「グループホーム（認知症の方向けの施設）などの地域に密着したサービスを利用したい」「高齢者向けに整備された住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など）を利用したい」「特別養護老人ホームなどの介護保険サービスを利用したい」「医療機関（入院）を利用したい」を合わせた“施設等に入所して暮らしたい”は 28.0%、「今のところはわからない」「主な介護者に相談しないと、わからない」を合わせた“わからない”が 26.6%となっています。

【今後の介護をどのようにしていきたいか】



5. クロス集計

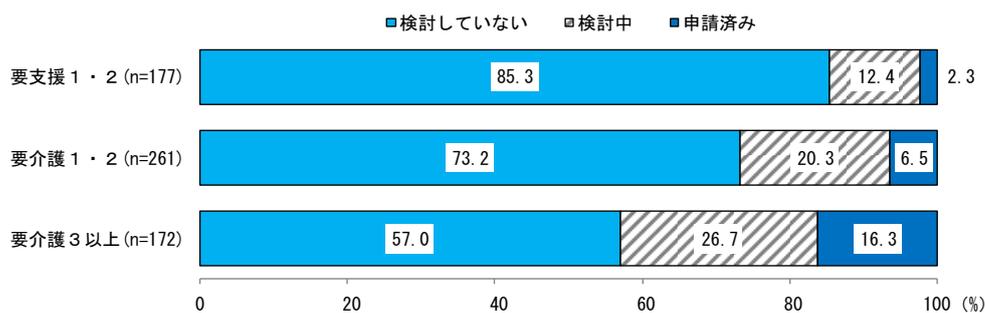
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

① 施設等への入所・入居の検討状況

● 要介護度

○ 要介護3以上をみると、「検討していない」が57.0%となっています。

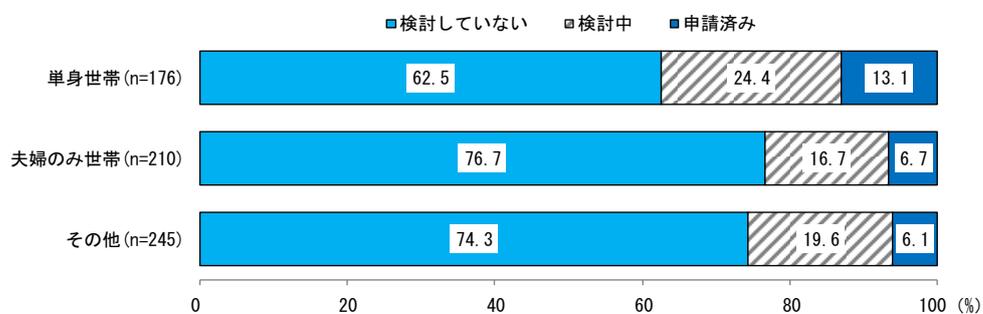
【要介護度別・施設等検討の状況】



● 世帯類型

○ 単身世帯をみると、「検討中」が24.4%、「申請済み」が13.1%となっています。

【世帯類型別・施設等検討の状況】

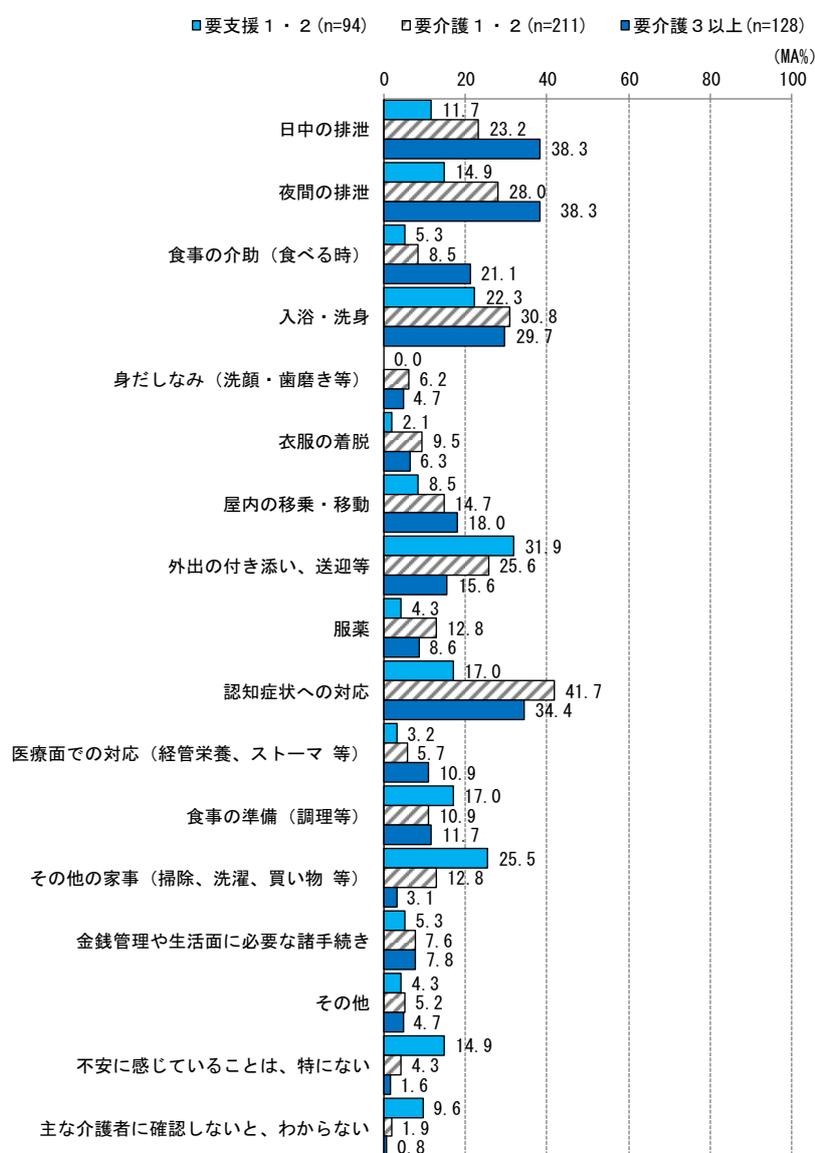


② 介護者が不安に感じる介護

●要介護度

- 要支援1・2をみると、「外出の付き添い、送迎等」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が多くなっています。
- 要介護1・2をみると、「認知症状への対応」「入浴・洗身」が多くなっています。
- 要介護3以上をみると、「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」が多くなっています。
- 要介護度が重度化するにつれて不安に感じる割合が高くなっている介護が在宅生活継続の限界点を引き下げていると考えられます。

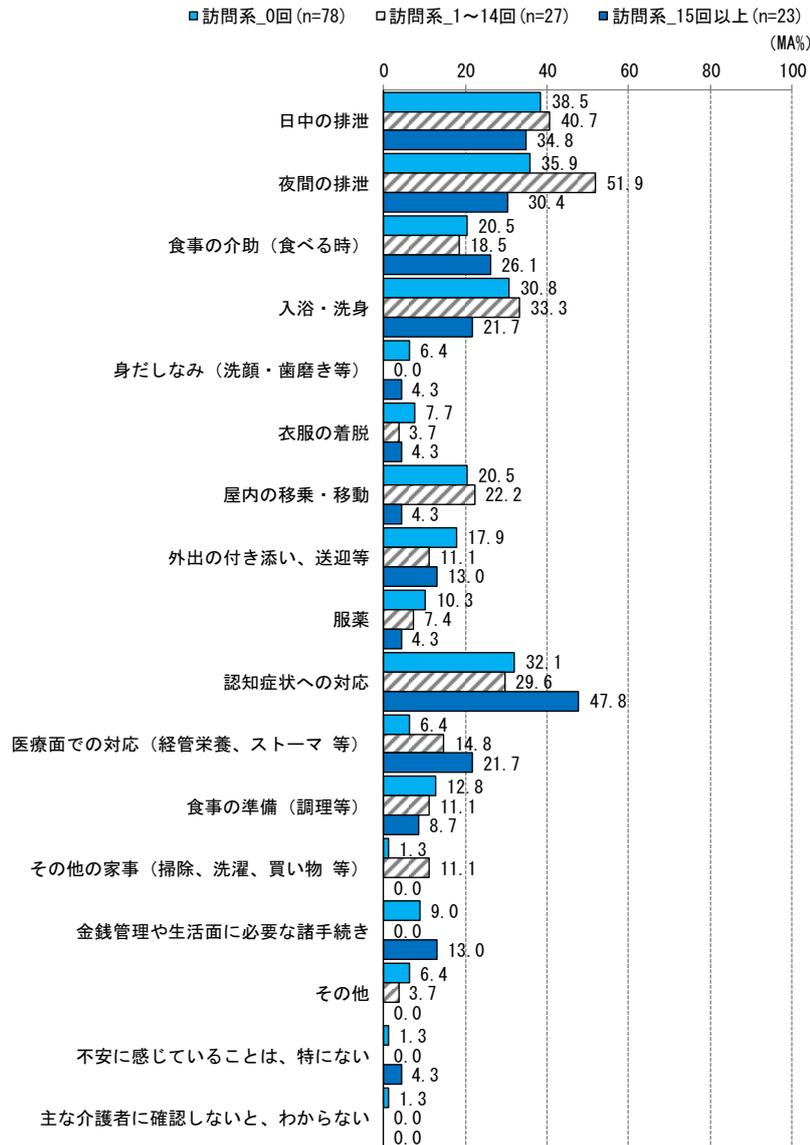
【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】



●訪問系サービスの利用回数

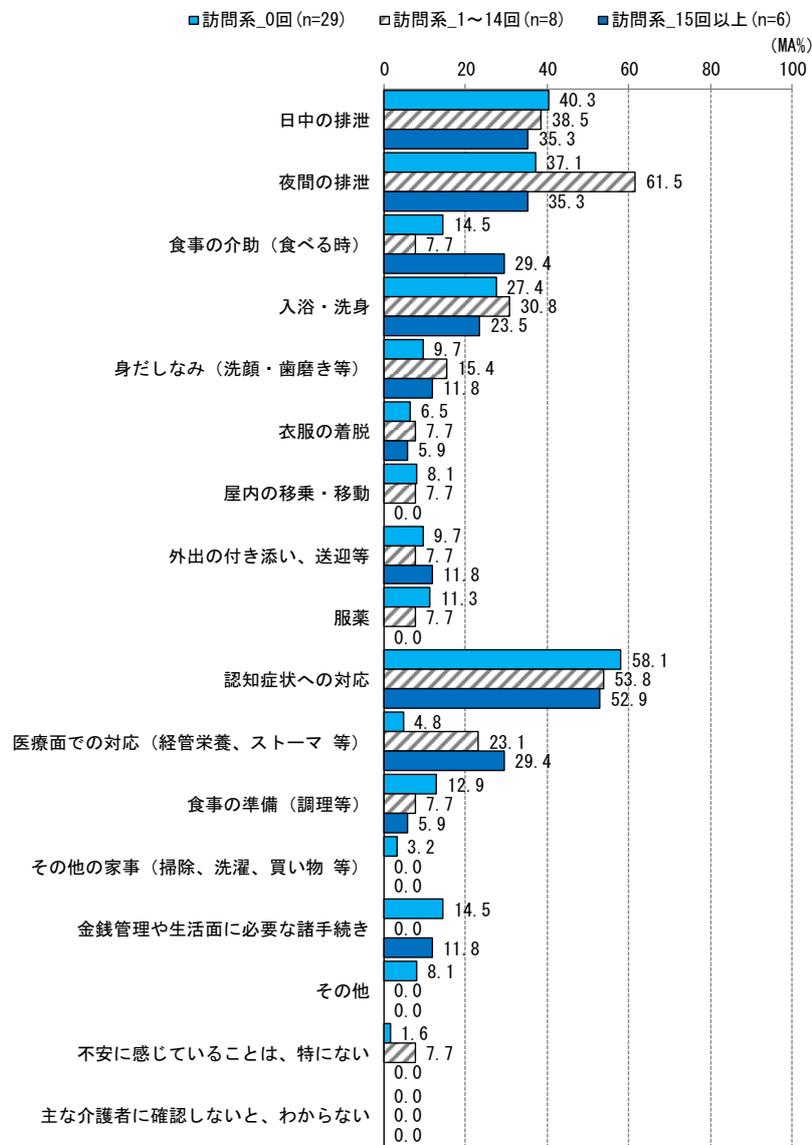
- 要介護3以上の人をみると、訪問系サービスの利用回数が15回以上では、1～14回利用と比べて「夜間の排泄」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」で特に少なくなる傾向がみられます。
- 訪問介護サービスを頻回に利用することで「排泄」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」に対する不安を軽減できると考えられます。

【訪問系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護（要介護3以上）】



○ 認知症自立度Ⅲ以上の人をみると、訪問系サービスの利用回数が15回以上では、1～14回利用と比べて「夜間の排泄」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」「服薬」で特に少なくなる傾向がみられます。

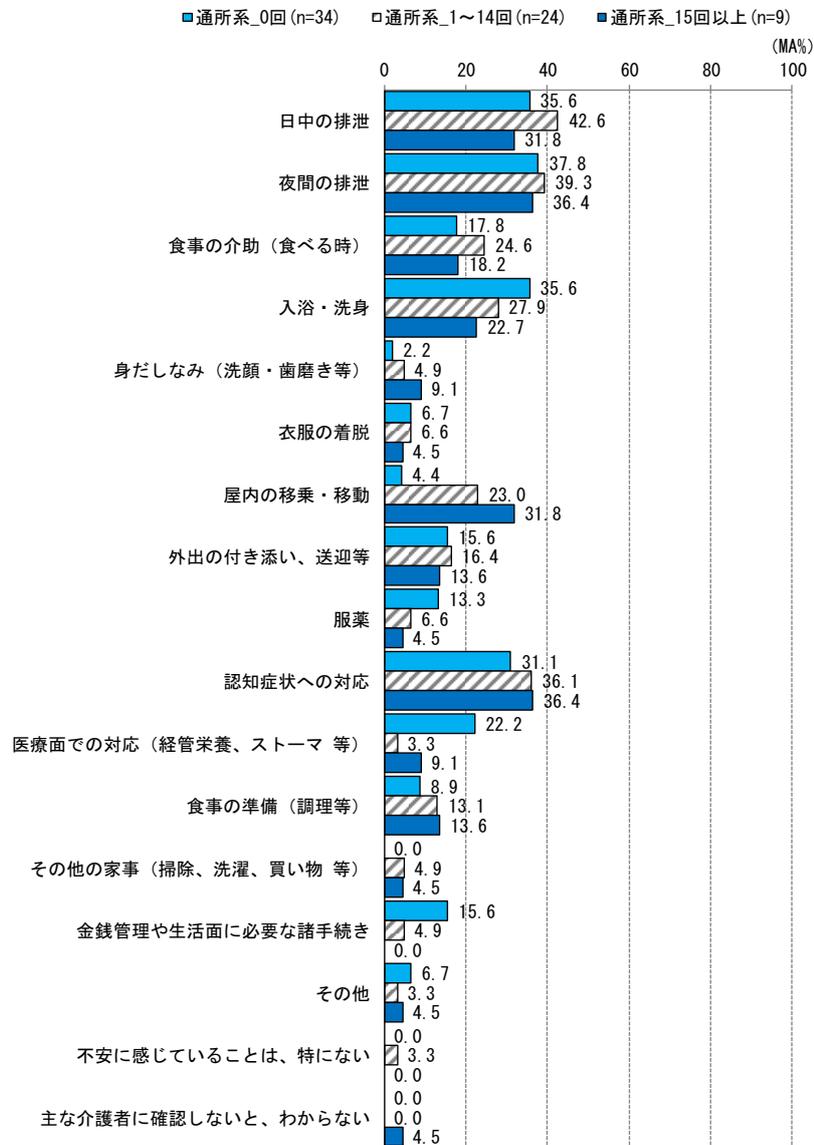
【訪問系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護（認知症Ⅲ以上）】



●通所系サービスの利用回数

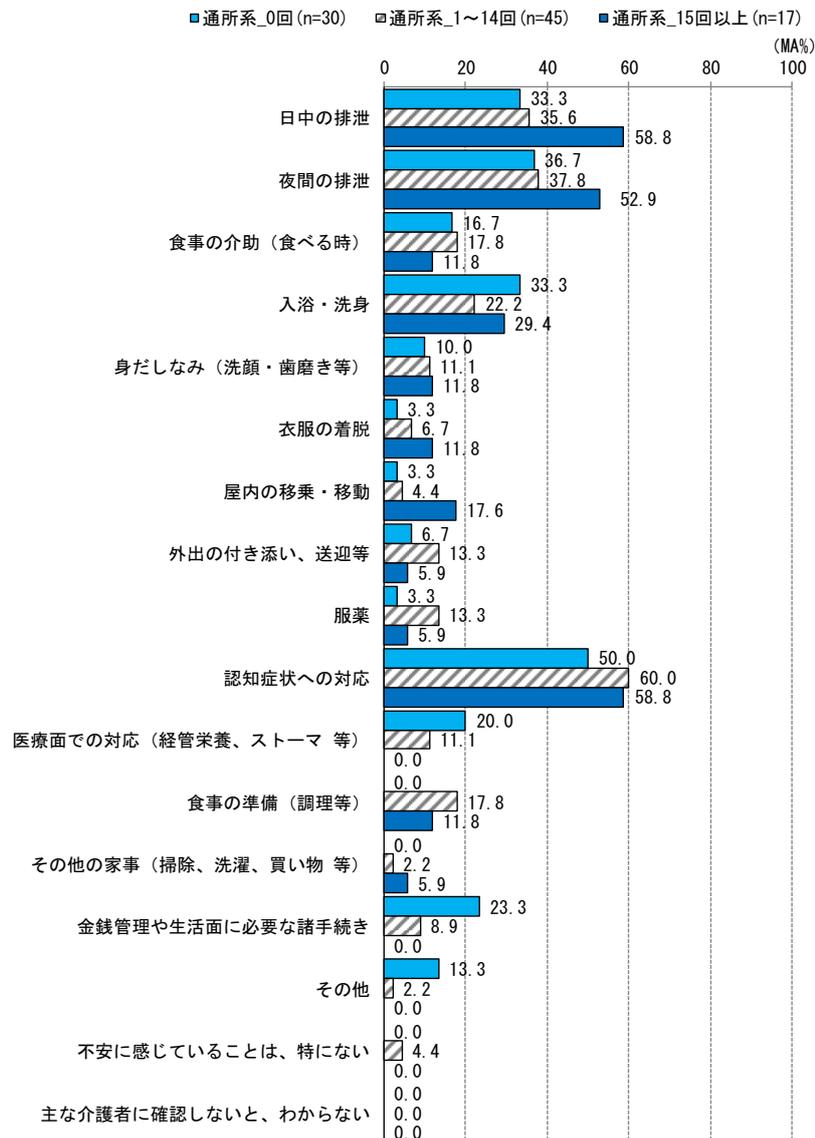
○ 要介護3以上の人をみると、通所系サービスの利用回数が15回以上では、1～14回利用と比べて「日中の排泄」「食事の介助（食べる時）」で特に少なくなる傾向がみられます。

【通所系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護（要介護3以上）】



- 認知症自立度Ⅲ以上の人をみると、通所系サービスの利用回数が15回以上では、1～14回利用と比べて「食事の介助（食べる時）」「外出の付き添い、送迎等」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」で特に少なくなる傾向がみられます。
- 反対に、「日中の排泄」「夜間の排泄」では、通所系サービスの利用回数が多くなるにつれて多くなる傾向がみられます。

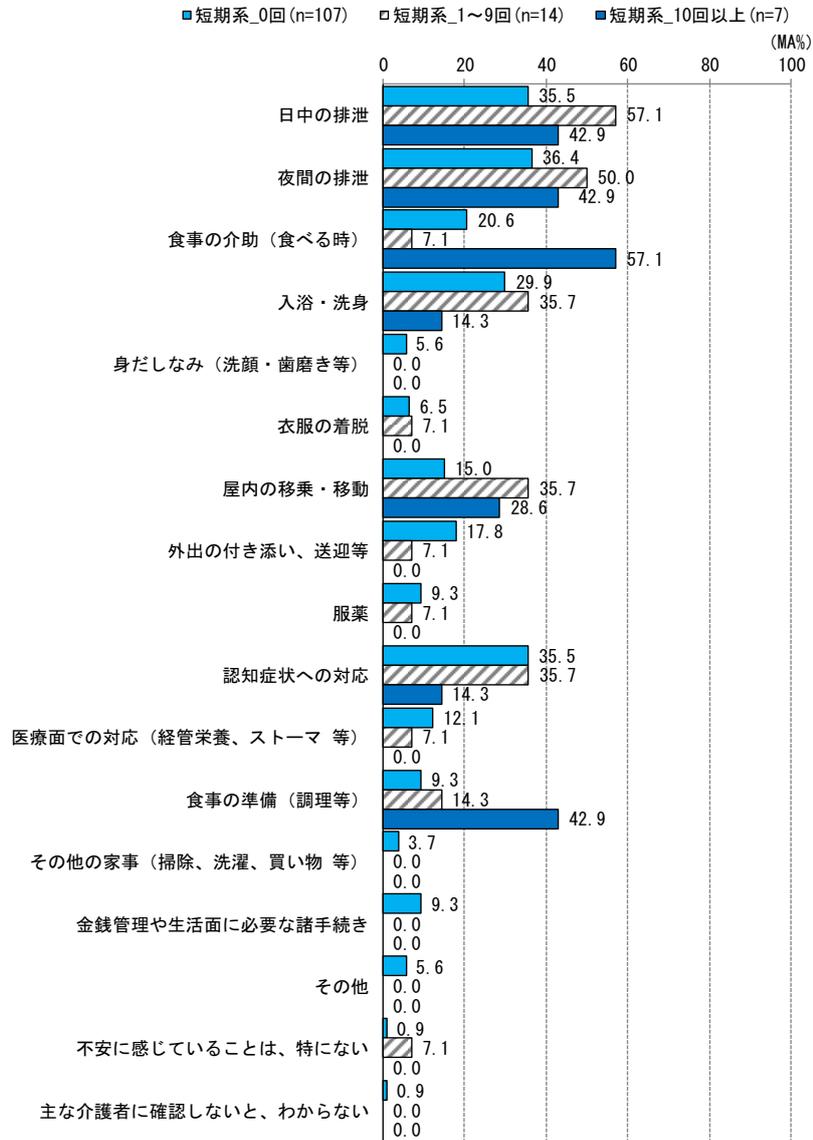
【通所系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護（認知症Ⅲ以上）】



●短期系サービスの利用回数

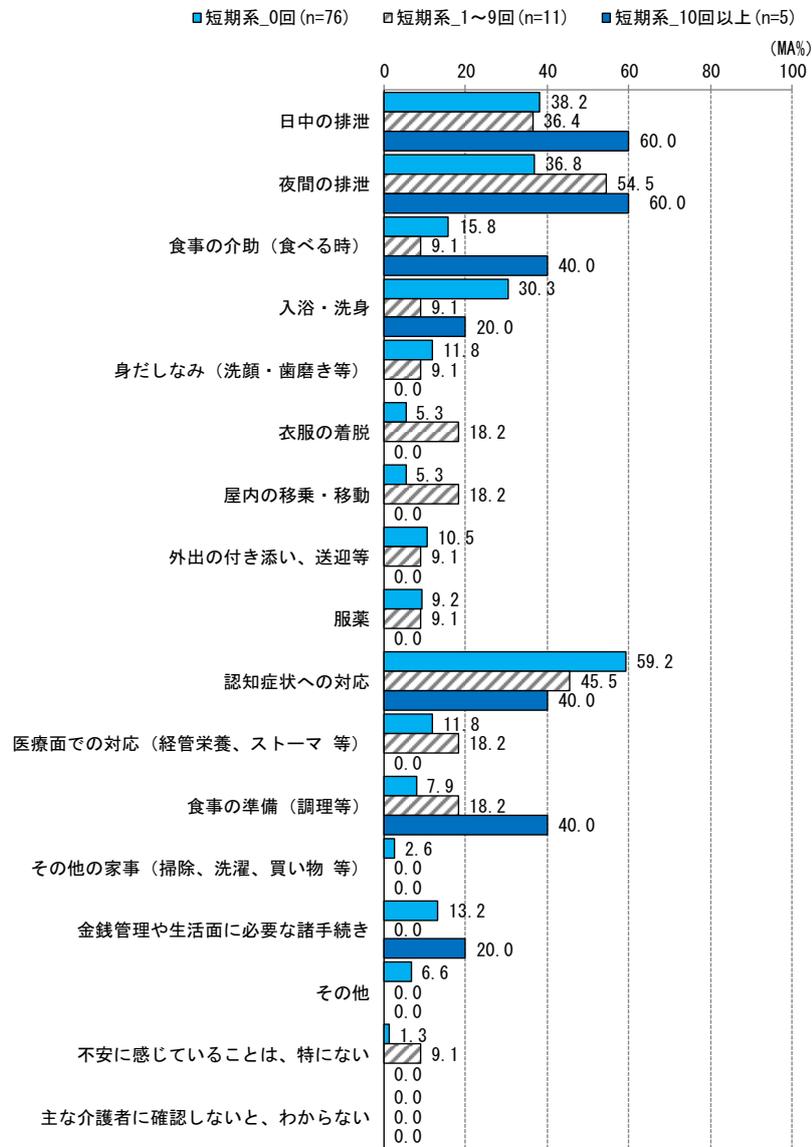
○ 要介護3以上の人をみると、短期系サービスの利用回数が10回以上では、1～9回利用と比べて「入浴・洗身」「認知症状への対応」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」で特に少なくなる傾向がみられます。

【短期系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護（要介護3以上）】



○ 認知症自立度Ⅲ以上の人をみると、短期系サービスの利用回数が10回以上では、1～9回利用と比べて「屋内の移乗・移動」「認知症状への対応」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」で特に少なくなる傾向がみられます。

【短期系サービスの利用回数・介護者が不安に感じる介護（認知症Ⅲ以上）】



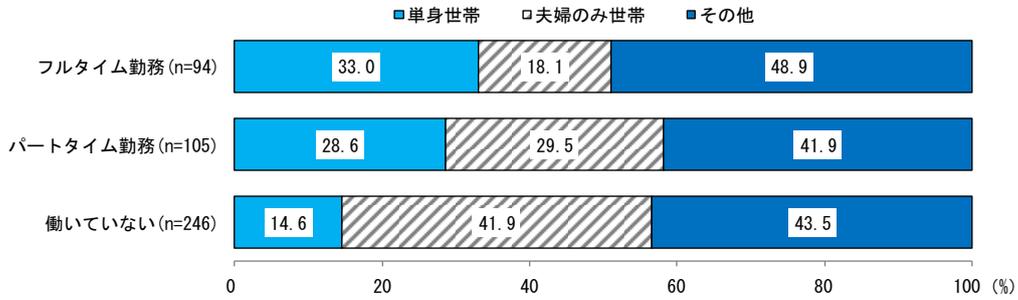
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

① 就労状況

● 世帯類型

○ フルタイム勤務をみると、「単身世帯」が33.0%となっています。

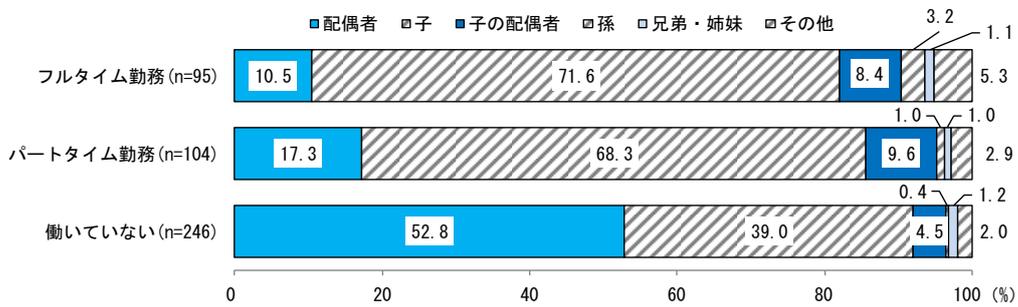
【介護者の就労状況・世帯類型】



● 主な介護者

○ フルタイム、パートタイム勤務をみると、「子」が多くなっています。
 ○ 働いていない人をみると、「配偶者」が多くなっています。

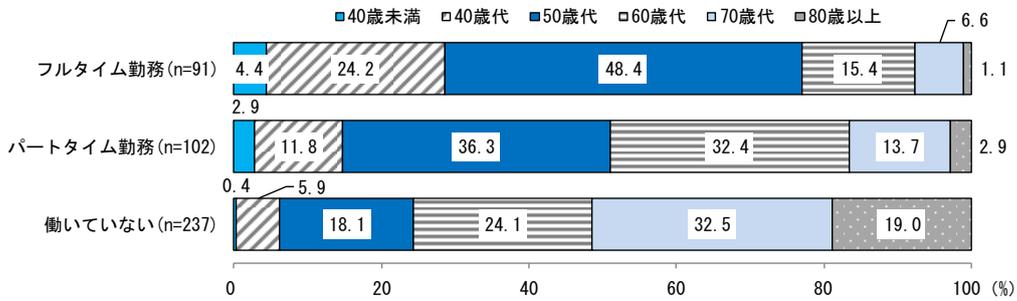
【介護者の就労状況・主な介護者】



● 主な介護者の年齢

- フルタイム、パートタイム勤務をみると、「50歳代」以下が多くなっています。
- 働いていない人をみると、「60歳代」以上が多くなっています。

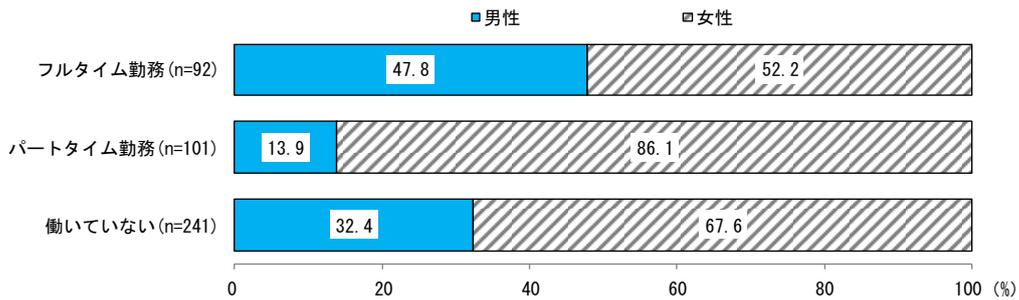
【介護者の就労状況・主な介護者の年齢】



● 主な介護者の性別

- パートタイム勤務をみると、「女性」が86.1%となっています。

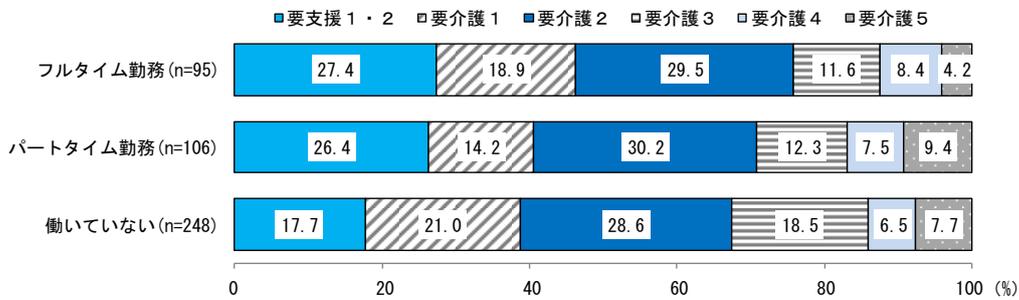
【介護者の就労状況・主な介護者の性別】



● 本人の要介護度

- 就労時間が短くなるにつれて重度者が多くなる傾向がみられます。

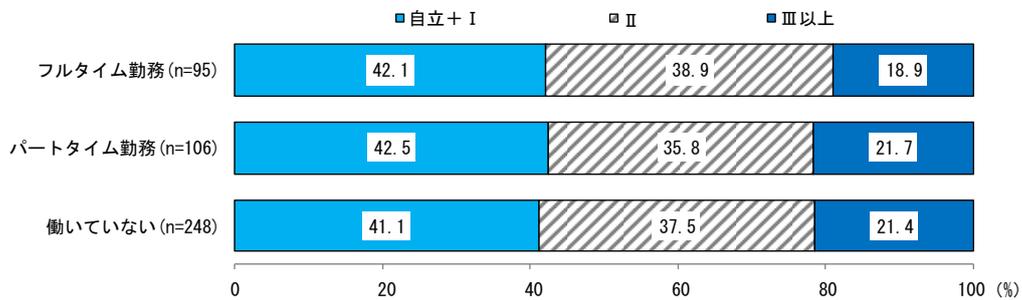
【介護者の就労状況・本人の要介護度】



●本人の認知症自立度

○ 就労時間によらず、同様の割合となっています。

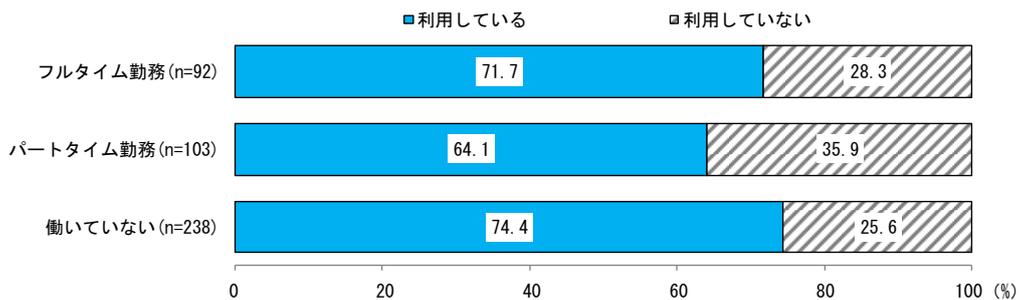
【介護者の就労状況・本人の認知症自立度】



●介護保険サービスの利用有無

○ 働いていない人をみると、「利用している」が74.4%と比較的多くなっています。

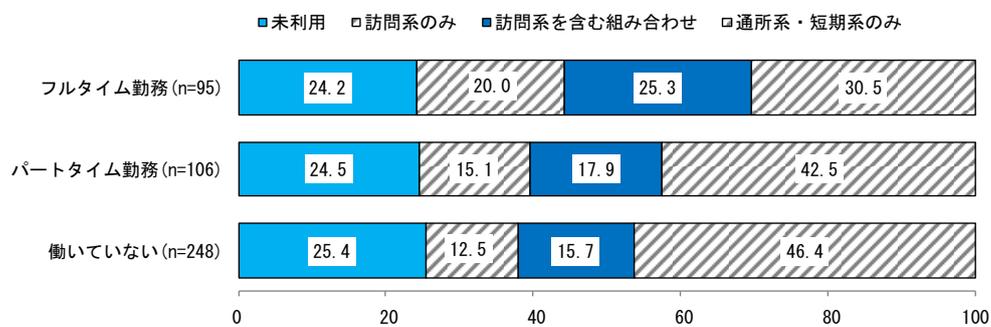
【介護者の就労状況・介護保険サービスの利用有無】



●サービス利用の組み合わせ

○ 就労時間が短くなるにつれて訪問系の利用が少なくなる傾向がみられます。

【介護者の就労状況・サービス利用の組み合わせ】

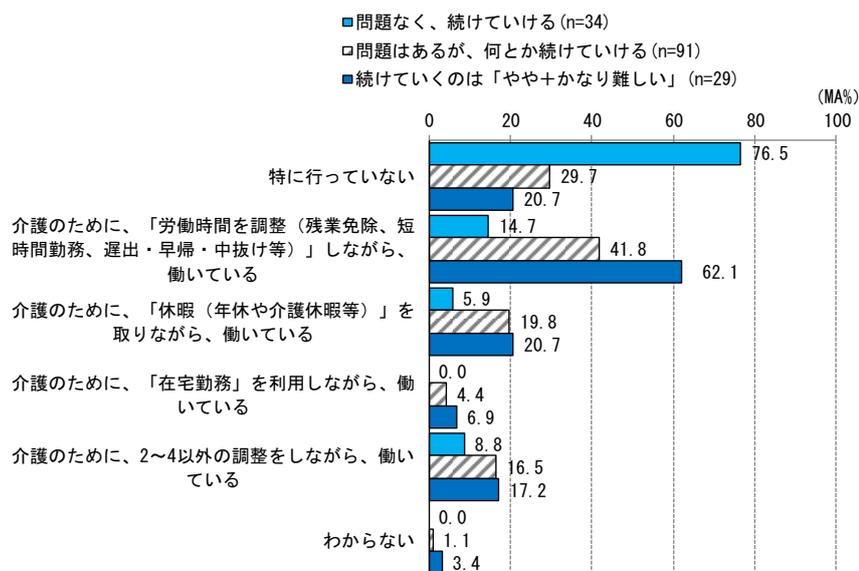


② 就労継続見込み

●介護のための働き方の調整

- 問題なく続けていける人をみると、特に行っていない人が多くなっています。
- 問題はあるが何とか続けていける人をみると、労働時間の調整が多くなっています。
- 続けていくのは難しい人をみると、特に行っていない人が20.7%となっています。

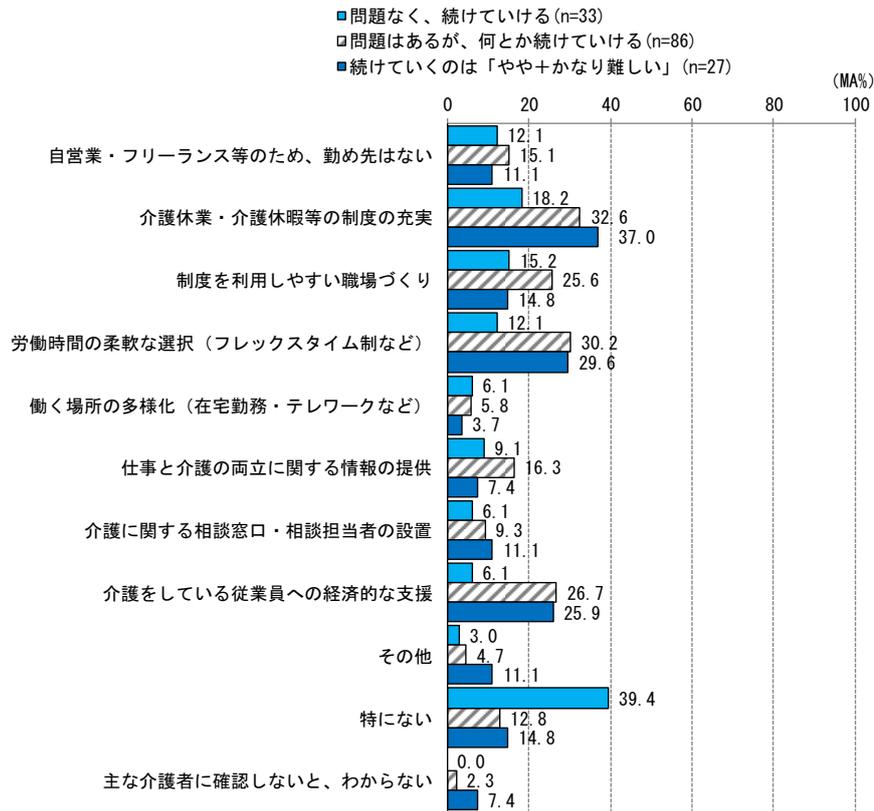
【就労継続見込み・介護のための働き方の調整（フルタイム・パートタイム勤務）】



●効果的な勤め先からの支援

- 問題なく続けていける人をみると、「特にない」「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の順で多くなっています。
- 続けていくのが難しい人をみると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「労働時間の柔軟な選択」「介護をしている従業員への経済的な支援」の順で多くなっています。

【就労継続見込み・効果的な勤め先からの支援（フルタイム・パートタイム勤務）】



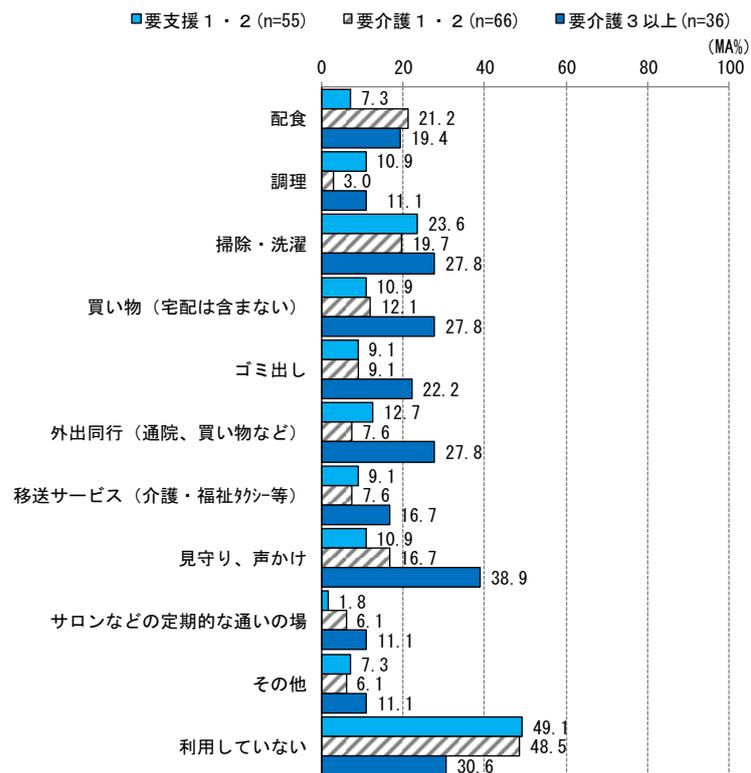
(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

① 保険外の支援・サービスの利用状況

● 要介護度

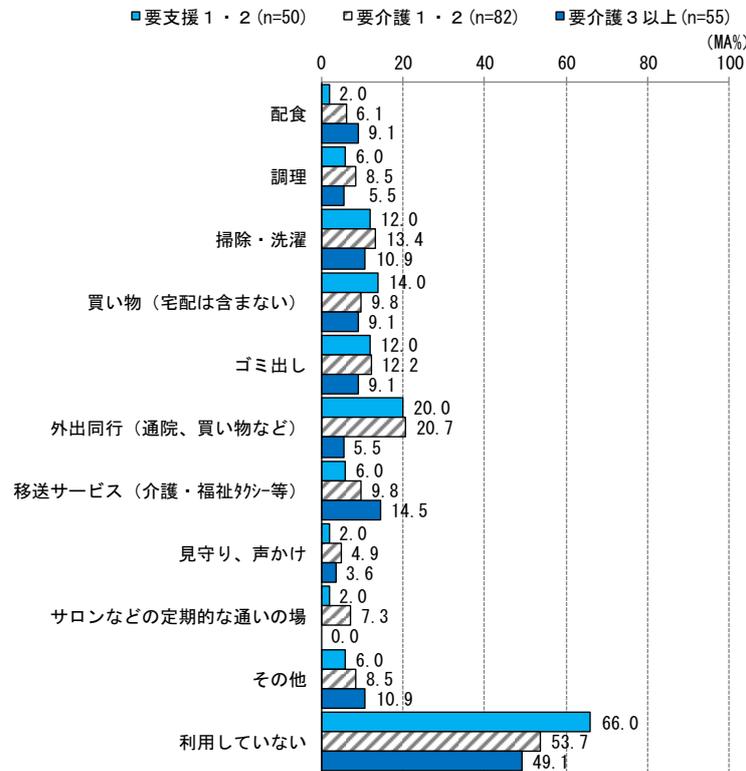
- 単身世帯をみると、要介護度が高くなるにつれて「利用していない」が少なくなる傾向がみられます。
- 要支援1・2では、「配食」「掃除・洗濯」が多くなっています。
- 要介護3では、「見守り、声かけ」が多くなっています。

【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）】

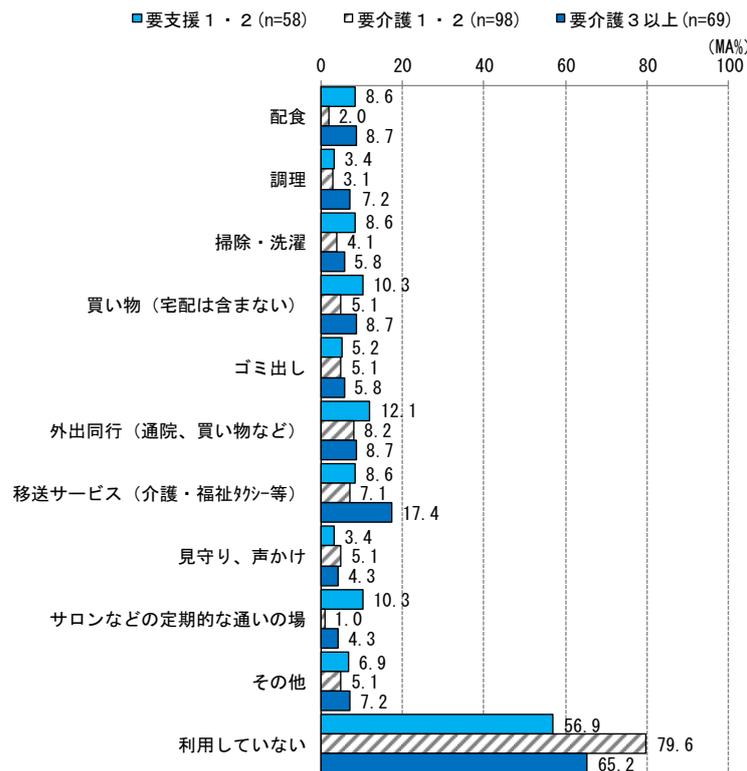


- 夫婦のみ世帯をみると、要介護度が高くなるにつれて「利用していない」が少なくなる傾向がみられます。
- 要支援1・2、要介護1・2では、「外出同行（通院、買い物など）」が多くなっています。
- その他世帯をみると、要介護3以上では、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が多くなっています。

【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】

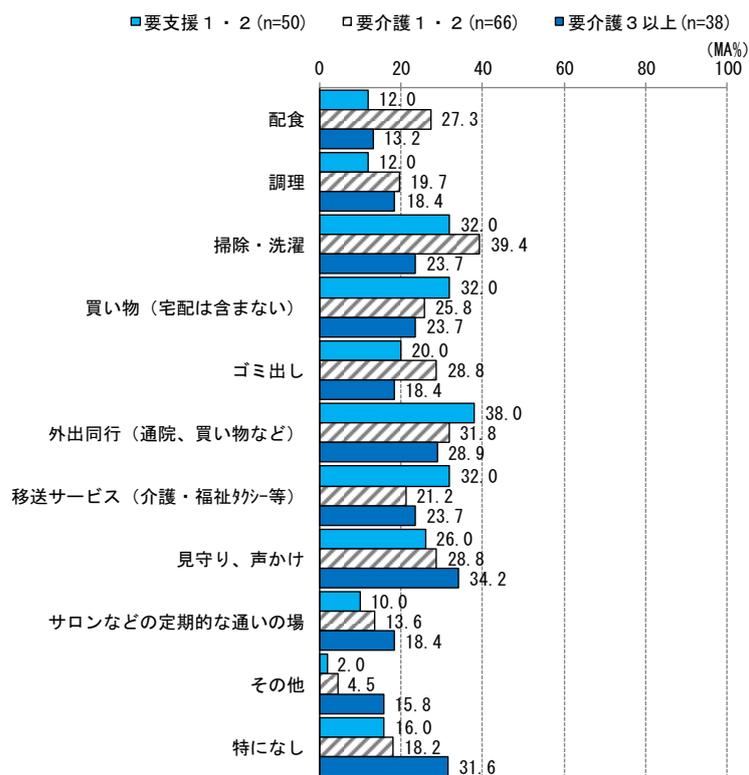


② 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

●要介護度

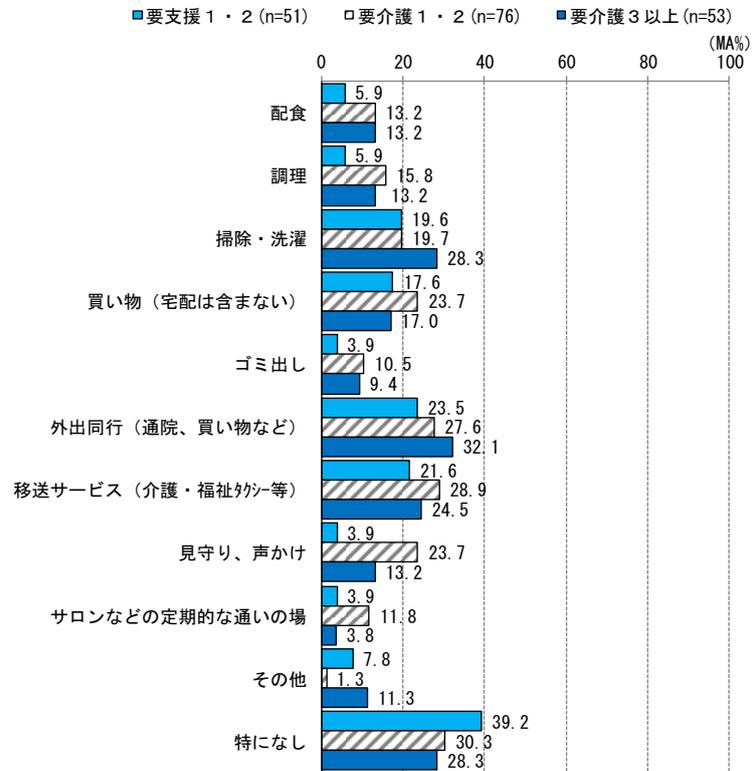
- 単身世帯をみると、要支援1・2では、「掃除・洗濯」「買い物」「外出同行」「移送サービス」が多くなっています。
- 要介護1・2では、「掃除・洗濯」「外出同行」「見守り、声かけ」が多くなっています。
- 要介護3以上では、「外出同行」「移送サービス」「見守り、声かけ」が多くなっています。
- 要介護度が重度化するにつれてニーズの高まっている「見守り・声かけ」が在宅生活の継続に向けて重要なポイントになると考えられます。

【要介護度別・在宅生活の継続に必要な支援・サービス（単身世帯）】



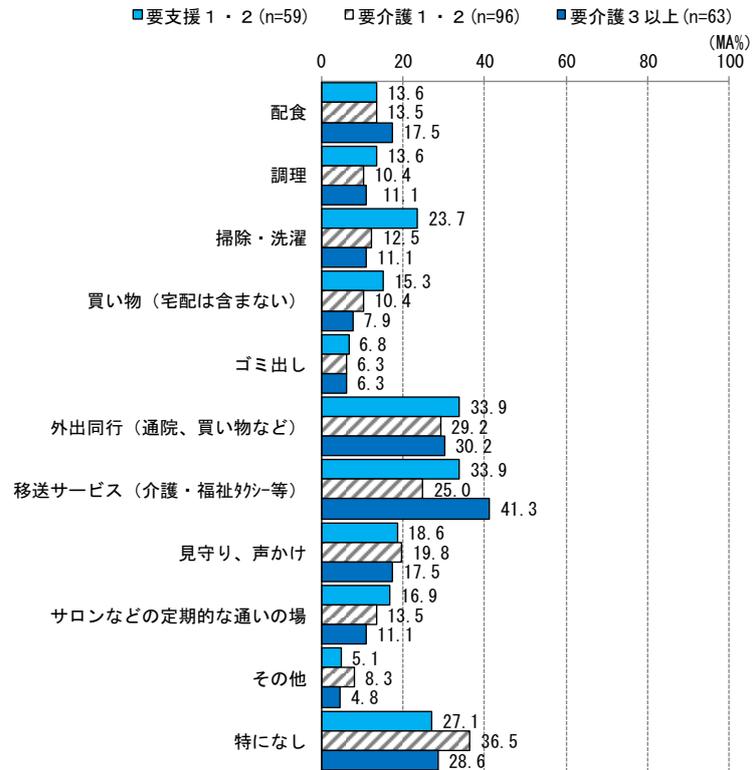
- 夫婦のみ世帯をみると、要支援1・2、要介護1・2では、「外出同行」「移送サービス」が多くなっています。
- 要介護3以上では、「掃除・洗濯」「移送サービス」「外出同行」が多くなっていますが、「特になし」が28.3%となっています。

【要介護度別・在宅生活の継続に必要な支援・サービス（夫婦のみ世帯）】



○ その他世帯をみると、いずれの要介護度でも、「移送サービス」「外出同行」が多くなっています。

【要介護度別・在宅生活の継続に必要な支援・サービス（その他世帯）】



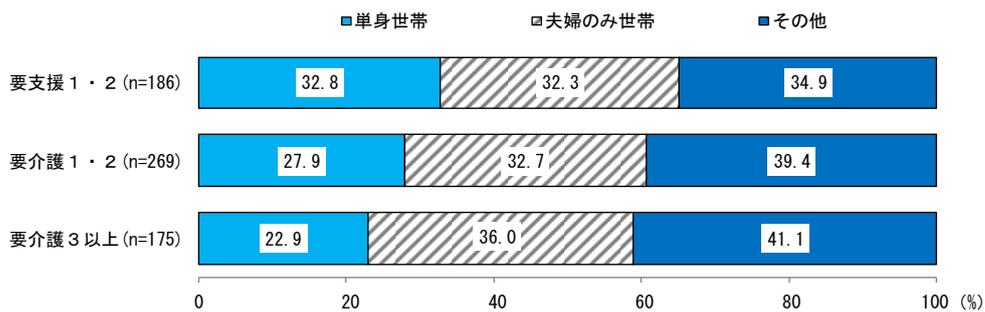
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

① 世帯類型

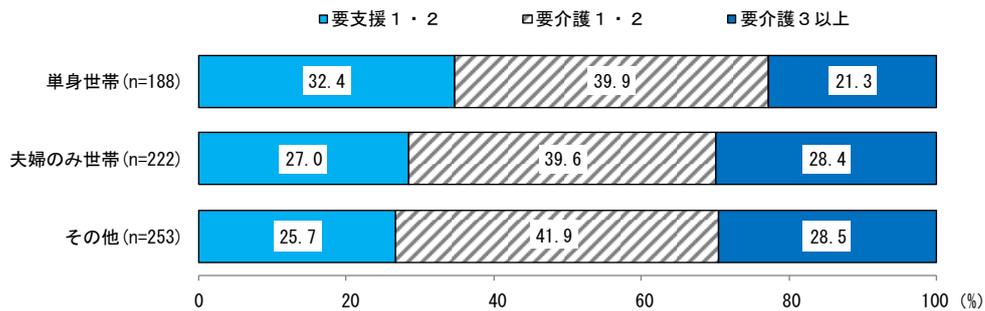
● 要介護度

- 要介護度別に世帯類型をみると、要介護度が高くなるにつれて「単身世帯」が少なくなる傾向がみられます。
- 世帯類型別に要介護度をみると、夫婦のみ世帯とその他世帯では「要介護3以上」が約3割となっています。

【要介護度別・世帯類型】



【世帯類型別・要介護度】

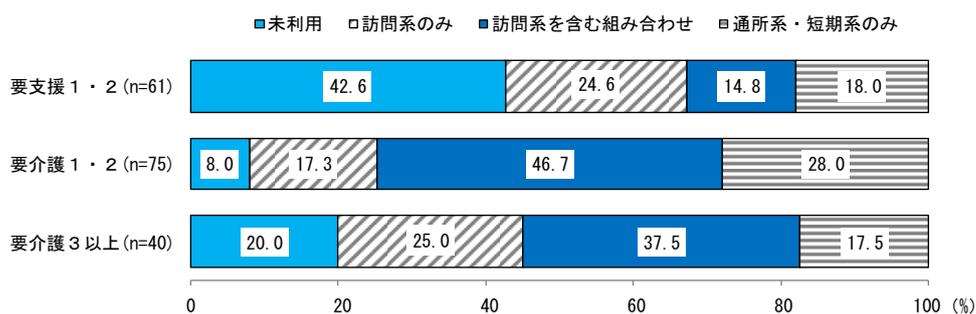


② サービス利用の組み合わせ

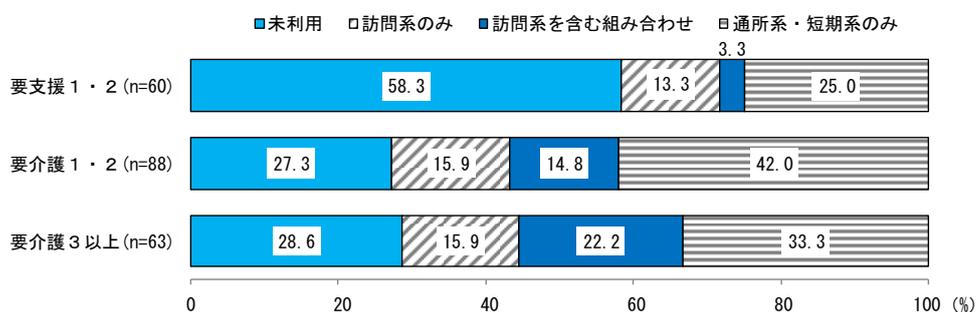
●要介護度

- 単身世帯をみると、要支援1・2、要介護3以上では、「訪問系を含む組み合わせ」が多くなっています。
- 夫婦のみ世帯をみると、要支援1・2では「未利用」が58.3%と多くなっています。要介護1・2、要介護3以上では「通所系・短期系のみ」が3～4割となっています。
- その他世帯をみると、要介護1・2、要介護3以上では「通所系・短期系のみ」が4割以上と多くなっています。

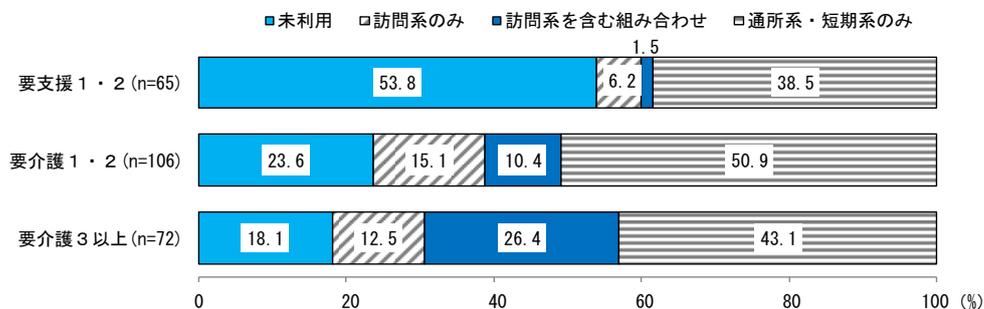
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

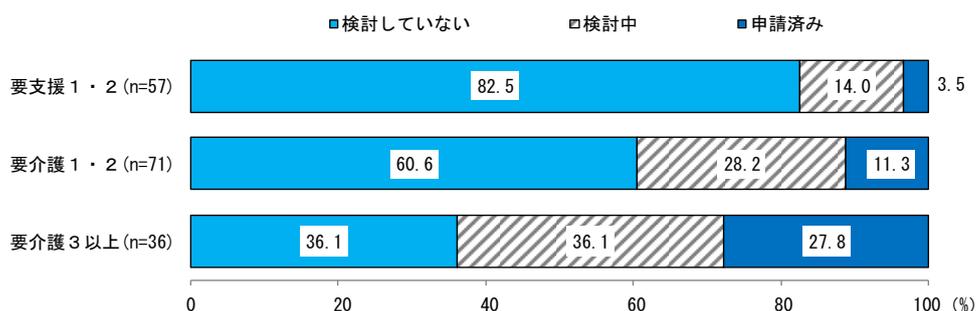


③ 施設等への入所・入居の検討状況

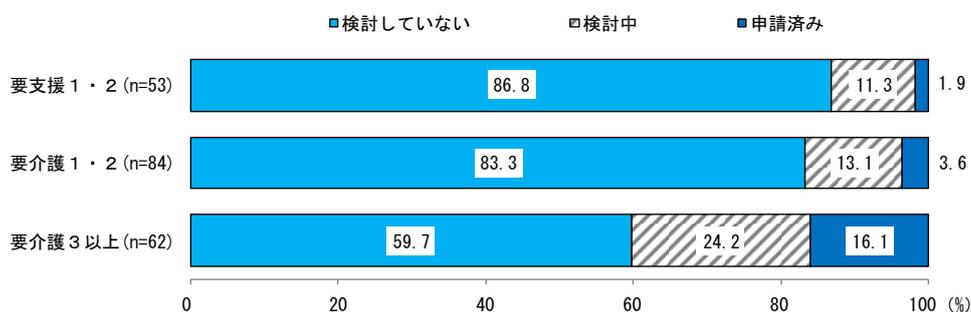
● 要介護度

- 単身世帯をみると、要支援1・2では「検討していない」が82.5%、要介護1・2では60.6%、要介護3では36.1%となっています。
- 夫婦のみ世帯をみると、要支援1・2では「検討していない」が86.8%、要介護1・2では83.3%、要介護3以上では59.7%となっています。
- その他世帯をみると、要支援1・2では「検討していない」が88.7%、要介護1・2では73.1%、要介護3以上では63.8%となっています。

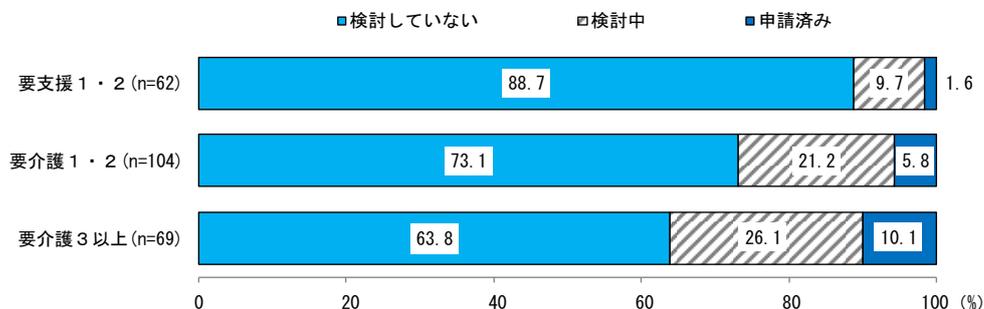
【要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）】



【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】



【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】



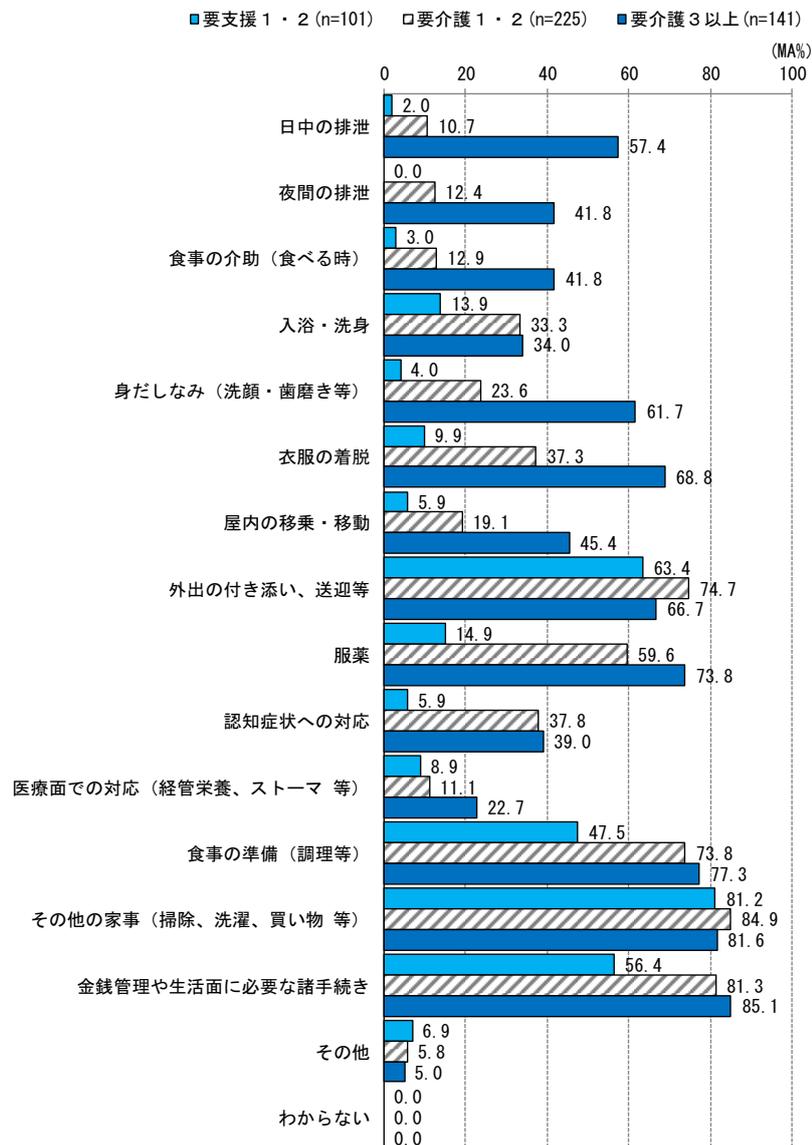
(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

① 主な介護者が行っている介護（医療面での対応）

● 要介護度

○ 「医療面での対応」をみると、要支援1・2では8.9%、要介護1・2では11.1%、要介護3以上では22.7%となっています。

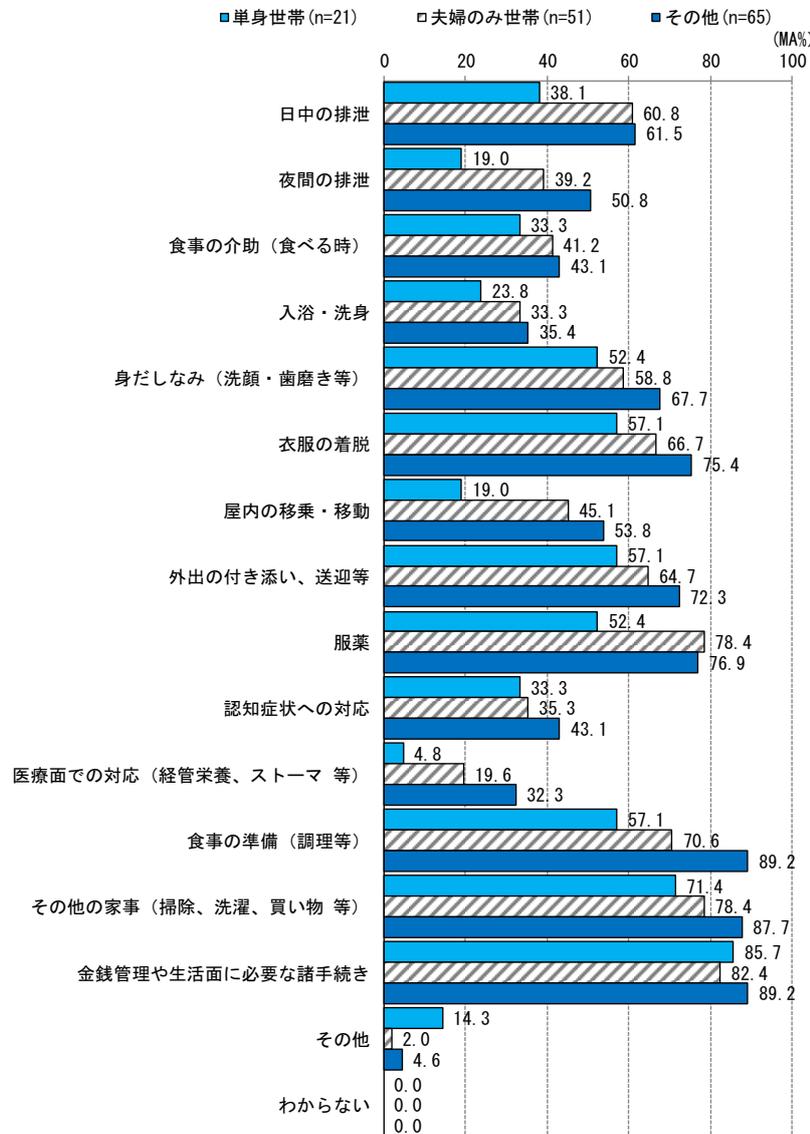
【要介護度別・主な介護者が行っている介護】



●世帯類型

○ 「医療面での対応」をみると、単身世帯では4.8%、夫婦のみ世帯では19.6%、その他世帯では32.3%となっています。

【世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）】

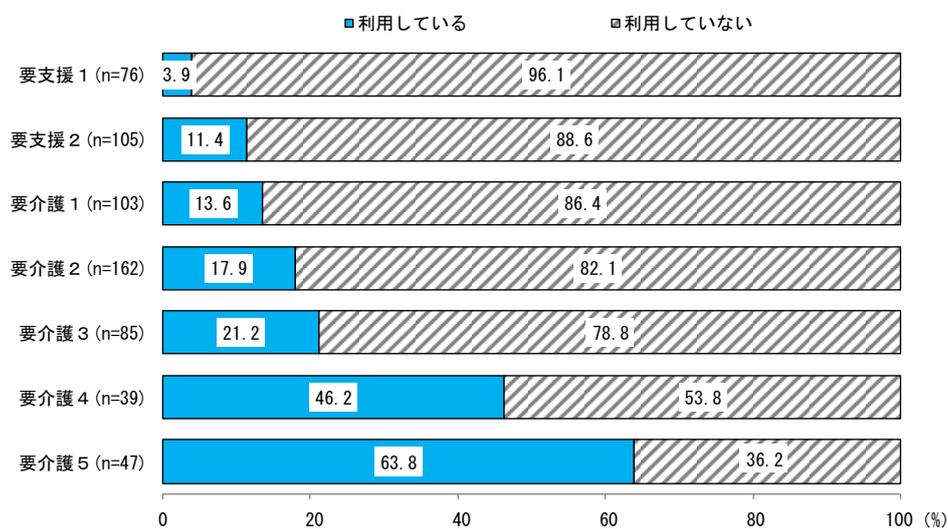


② 訪問診療の有無

● 要介護度

○ 要介護度が高くなるにつれて「利用している」が多くなる傾向がみられ、要支援1では3.9%であるのに対して、要介護5では63.8%となっています。

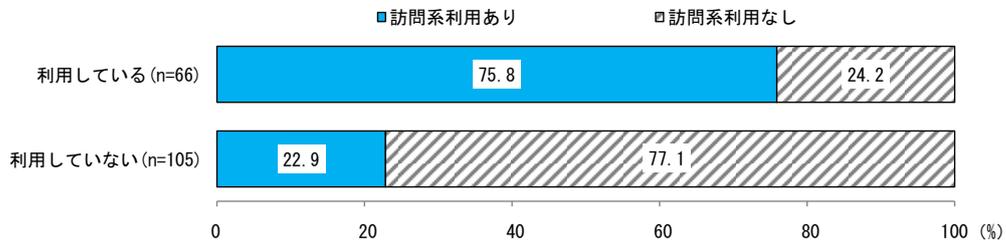
【要介護度別・訪問診療の利用有無】



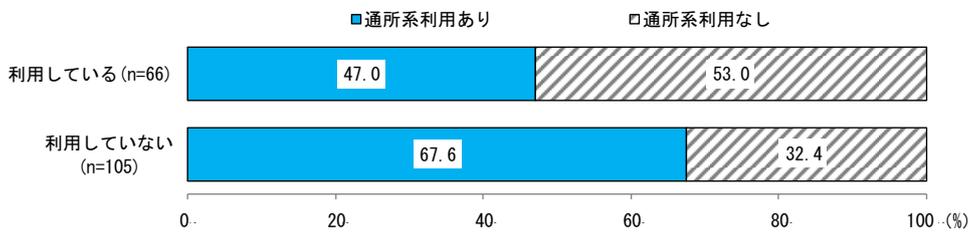
●介護保険サービスの利用有無

○ 訪問診療を利用している人をみると、「訪問系利用あり」は 75.8%、「通所系利用あり」は 47.0%、「短期系利用あり」は 12.1%となっています。

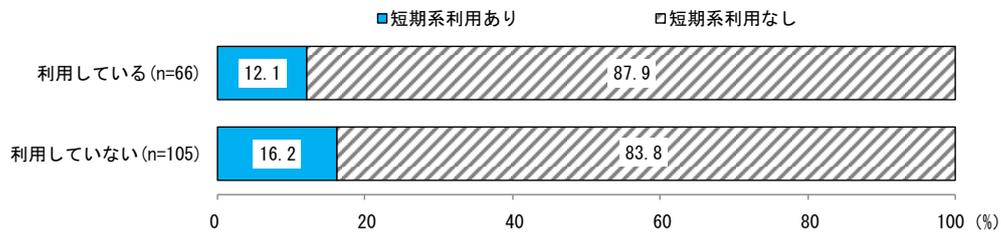
【訪問診療の利用有無・サービスの利用有無（訪問系、要介護3以上）】



【訪問診療の利用有無・サービスの利用有無（通所系、要介護3以上）】



【訪問診療の利用有無・サービスの利用有無（短期系、要介護3以上）】



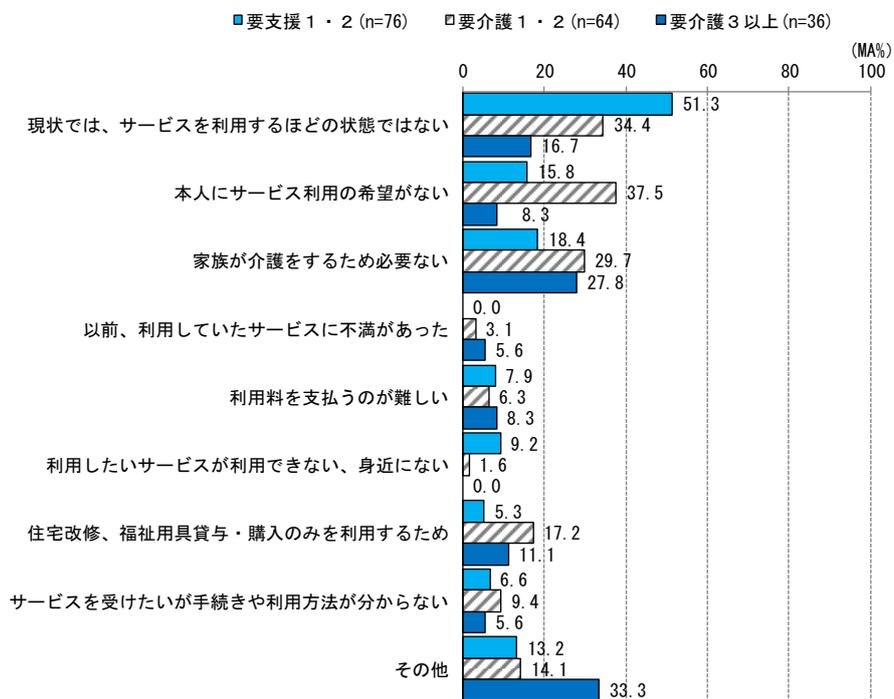
(6) その他

① サービス未利用理由

●要介護度別

- 要支援1・2みると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.3%で最も多く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が18.4%となっています。
- 要介護1・2をみると、「本人にサービス利用の希望がない」が37.5%で最も多く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が34.4%となっています。
- 要介護3以上をみると、「家族が介護をするため必要ない」が27.8%で最も多く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が16.7%となっています。

【要介護度別・サービス未利用理由】



② 主な介護者の年齢

● 本人の年齢

- 65～69歳をみると、主な介護者の年齢が「60歳代」以上が約9割と多くなっています。
- 70歳代以上をみると、子や孫の世代が主な介護者となっている割合が多くなっています。

【本人の年齢・主な介護者の年齢】

